

特別調査「数値でみる千葉県市町村の地方創生」

目 次

はじめに	1
分析の手法	2
1 章. 県内ブロック・自治体別の相対的水準の把握	5
1. 総合評価	5
(1) ブロック別	5
(2) 自治体別	8
2. 定性調査、定量調査別の状況	10
(1) ブロック別	10
(2) 自治体別	12
2 章. 住民の満足度の絶対的水準の把握	14
1. 10 分野全体・分野別	14
(1) 県内全体	14
(2) ブロック別	16
(3) 自治体別	16
2. 協働、SDGs、多様性、行政デジタル化などに対する評価	17
3 章. まとめ～分析結果からの提言	21
(資料1) 自治体別「総合」、「定性」、「定量」偏差値一覧	23
(資料2) 自治体別「愛着度」、「居住継続意向」の満足度指数・偏差値一覧	26
(資料3) 自治体別 協働、SDGs、多様性、行政デジタル化等の満足度指数一覧	27
(資料4) 定性調査・定量調査項目一覧	28
(資料5) 定量調査項目出典一覧	29

はじめに

政府が 2014 年 12 月に「まち・ひと・しごと総合戦略」を閣議決定し、地方創生を掲げてから 7 年以上が経過した。県内市町村でも 15 年度に「人口ビジョン」と「地方版総合戦略」を策定して、地域の活性化に取り組んできた。20 年度には地方版総合戦略を更新した市町村も多い。

地方創生の成果をみると、千葉県全体ではこの 7 年間で人口が 6 万人増加(622 万人→628 万人)して、経済も着実に改善しているといえる。もっとも、個々の市町村別にみると、人口が増加して経済が活性化している自治体がある一方で、過疎化に歯止めがかからずに地域経済が減退を続けている先もみられるのが実状である。

(株)千葉銀行では、15 年 9 月に県内市町村の特性を定性面(住民アンケート)と定量面(就業率や出生率など統計データ)の両面から数値化・偏差値化(みえる化)して公表した。今回は、15 年 9 月と同様の手法で改めて市町村の特性の数値化を試み、地方創生の進捗状況(これまでの成果)を整理する。また偏差値等が上昇した自治体の施策などを紹介するとともに、調査結果を踏まえて、県内市町村が持続可能なまちづくりの実現に向けて重要と考えられる、施策立案を行っていく上での方針(基本的な考え方)についての提言を行う。

本稿が地方創生に取り組む関係者にとって参考になれば幸いである。

分析の手法

(1) 数値化の手法

県内 54 市町村について定性要因 48 項目及び定量要因 47 項目ごとに分析を行った。

定性要因は、図表 1 掲載の 10 分野ごとの項目に加え、例えば「このまちが好きである」、「SDGs が進んでいる」といった、数値に表れにくい地域の魅力等について住民アンケートを実施し、その回答を「満足度指数」として数値化したうえで、偏差値化して使用した。

定量要因では、同じく 10 分野について、出生数や就業者数のように、市町村別に公表されている社会指標等の各種統計データ（出典元については後掲の「資料 5」参照）について取り上げた。なお、各自治体の人口規模が異なり、単純に数値の大小だけでは判断できない指標も多いことから、総人口あるいは一定の人口等で割ることによって自治体間で比較可能にしたうえで、偏差値化した。

偏差値を使用したのは、各自治体が周辺自治体等と比較し、相対的な「特性」や「立ち位置」を検証するうえで分かりやすいという性質によるものである。

これらの定性要因及び定量要因合計 95 項目を、分野別に市町村間で比較分析している。

なお本稿では、今回とほぼ同様の手法で分析した前回調査（15 年）の結果との比較も行っている。前回調査の結果と分析手法については、“「千葉県創生」戦略プラン¹～千葉県の持続可能な地域づくりに向けて～（千葉銀行、15 年 9 月）”を参照のこと。

（図表 1）分析分野及び項目数

	分野	定性要因	定量要因		分野	定性要因	定量要因
①	子育て	4	5	⑦	就業	4	4
②	教育	4	5	⑧	観光	4	4
③	医療	4	6	⑨	安全安心	4	4
④	福祉	4	6	⑩	環境・文化	4	5
⑤	都市基盤	4	4	—	その他	8	—
⑥	住環境	4	4	合 計		48	47

※ 各分野の調査項目については、後掲の資料 4「定性調査・定量調査項目一覧」を参照

（注）本稿での分析は、上記 95 項目を対象として実施したものであるが、各自治体にはデータで表すことができないプラス面、マイナス面があり、今回の評価には、そうした要素は盛り込まれていないことに留意する必要がある。

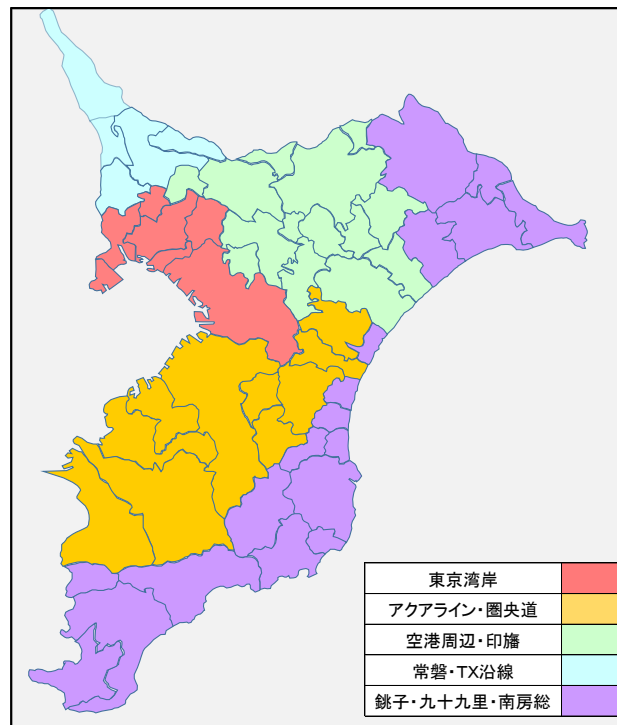
¹ （株）ちばぎん総合研究所のホームページ（千葉県経済 - 調査研究情報 - 2015 年度）に掲載。

(2) 調査分析の「単位」について

本調査では、県全体、ブロック別、自治体別、それぞれの単位について、分析を行っている。

なお、ブロック別の区分（15年9月の調査と同じ）は、地図で示したように「東京湾岸地域」、「アクアライン・圏央道沿線地域」、「成田空港周辺・印旛地域」、「常磐・つくばエクスプレス沿線地域」、「銚子・九十九里・南房総地域」の5つで、各ブロックに属する自治体は、下記の表のとおりである。

（図表2）各ブロックの位置図と自治体名



ブロック名	自治体数	自治体名						
東京湾岸	7	千葉市	市川市	船橋市	習志野市	八千代市	鎌ケ谷市	浦安市
アクアライン・圏央道	10	木更津市	茂原市	東金市	市原市	君津市	富津市	袖ケ浦市
		大網白里市	(長柄町)	(長南町)				
空港周辺・印旛	14	成田市	佐倉市	四街道市	八街市	印西市	白井市	富里市
		山武市	酒々井町	栄町	(神崎町)	(多古町)	(芝山町)	横芝光町
常磐・TX沿線	5	松戸市	野田市	柏市	流山市	我孫子市		
銚子・九十九里・南房総	18	銚子市	館山市	旭市	勝浦市	鴨川市	南房総市	匝瑳市
		香取市	いすみ市	(東庄町)	九十九里町	(一宮町)	(睦沢町)	長生村
		(白子町)	(大多喜町)	(御宿町)	(鋸南町)			

注 1) 本文中の各ブロックの標記は簡略化し、「東京湾岸」、「アクアライン・圏央道」、「空港周辺・印旛」、「常磐・TX沿線」、「銚子・九十九里・南房総」とする。

注 2) 住民アンケート調査において回収数が一定数に満たなかった 12 町（町名をカッコ書きで表示）は、「定性調査」の対象外とし、「定量調査」のみを行っている。また「総合評価」は、「定性評価」と「定量評価」の平均を算出したものであるため、この 12 町は、「総合評価」についても対象外としている（後掲の「資料 1」参照）。

(3) 活用するデータ

本調査では、「定性調査」と「定量調査」によってデータを収集し、これを活用して県全体、ブロック別、自治体別の現状を把握していく。

【定性調査】（県民向けアンケート調査。設問（調査項目）は後掲の「資料4」参照）

対象	・県内自治体に居住する3,000人（基本的に人口比で自治体別に抽出）
設問	・10分野（子育て、教育、住環境、安全安心等）×4問 計40問 + 個別設問8問 総計48問 例）「安心して出産・子育てができる」「市街地が整備されている」「治安が良い」等
回答形式	・「①とてもそう思う」「②ややそう思う」「③あまりそう思わない」「④全くそう思わない」の4択
集計方法	・各設問について「①×2+②×1+③×(-1)+④×(-2)」を算出（＝「満足度指数」とする） ⇒その数値から、各ブロック、自治体の県全体の中での「偏差値」を算出し、 「40設問」の結果から、「10分野別」「10分野総合」の偏差値を比較分析 ⇒「住民が自らの自治体をどう認識しているのか」、抱いている「イメージ」を把握する

※「偏差値」（相対的水準）と「満足度指数」（絶対的水準）について分析していく。

【定量調査】（各種統計データ調査。調査項目は後掲の「資料4」及び「資料5」参照）

項目	・10分野で「その分野における水準の程度（良好さ）をあらわしていると考えられ、かつ抽出が可能な統計データ」として、各分野4～6項目を選定 総計47項目 例）「合計特殊出生率」「要介護（要支援）認定比率」「人口あたり交通事故発生件数」等
集計方法	・各項目について、各ブロック、自治体の県全体の中での「偏差値」を算出し、 「47設問」の結果から、「10分野別」「10分野総合」の偏差値を比較分析 ⇒実際の統計データが示す、各自治体の「実態」がどうであるかを把握する

※「偏差値」（相対的水準）について分析していく。

（図表3）ブロック別・自治体別 偏差値算出の全体像

	① 子育て	② 教育	③ 医療	④ 福祉	⑤ 都市基盤	⑥ 住環境	⑦ 就業	⑧ 観光	⑨ 安全安心	⑩ 環境文化	
アンケート ⇒ 分野別 定性偏差値	4項目 ↓ ○	4項目 ↓ ○	4項目 ↓ ○	4項目 ↓ ○	4項目 ↓ ○	4項目 ↓ ○	4項目 ↓ ○	4項目 ↓ ○	4項目 ↓ ○	4項目 ↓ ○	(計48) (計10) ⇒
	&	&	&	&	&	&	&	&	&	&	10分野全体 定性偏差値 ○
統計データ ⇒ 分野別 定量偏差値	5項目 ↓ ◇	5項目 ↓ ◇	6項目 ↓ ◇	6項目 ↓ ◇	4項目 ↓ ◇	4項目 ↓ ◇	4項目 ↓ ◇	4項目 ↓ ◇	4項目 ↓ ◇	5項目 ↓ ◇	(計47) (計10) ⇒
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	10分野全体 定量偏差値 ◇
(定性&定量) 分野別 総合偏差値	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	(計10) ⇒
											10分野全体 定性&定量 総合偏差値 ★

1 章. 県内ブロック・自治体別の相対的水準の把握

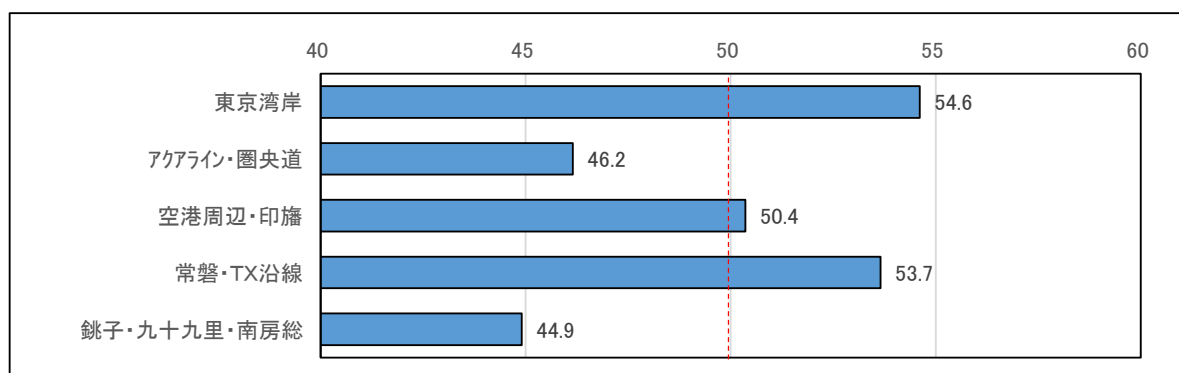
1. 総合評価

(1) ブロック別

①全体像（10 分野全体）

定性・定量調査を合わせた総合評価の偏差値（定性偏差値と定量偏差値の平均値）をブロックごとにみると、東京湾岸がトップで、常磐・TX 沿線が続き、空港周辺・印旛がほぼ平均、アクアライン・圏央道と銚子・九十九里・南房総が 50 を下回る結果となった。全体的にみて偏差値は、都市部で高く、地方部で低くなっている。

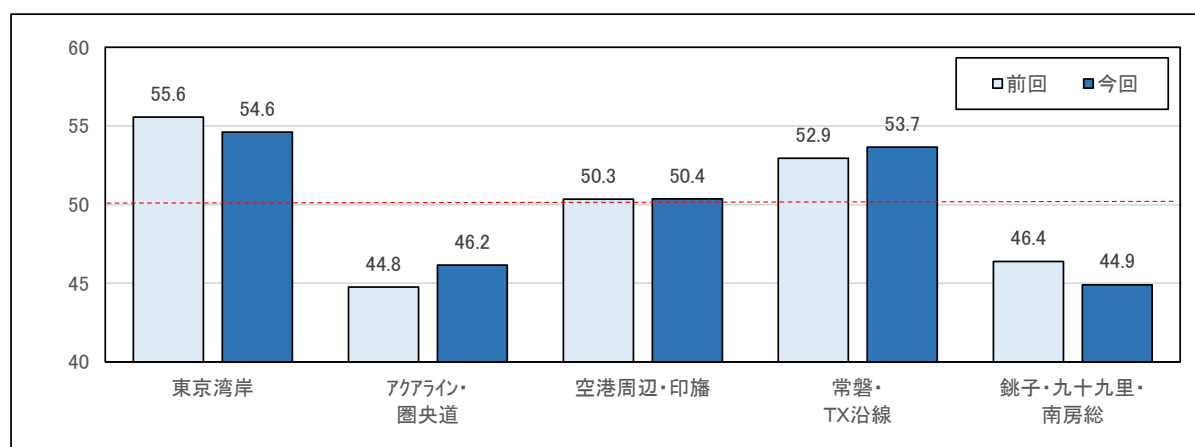
（図表 4）ブロック別 総合偏差値



※ ブロック別偏差値と分野別の内訳については、後掲の図表 11「ブロック別 分野別の総合（定性＋定量）・定性・定量の偏差値」を参照

偏差値を 15 年の調査結果（以下、「前回」と比較してみると、各ブロックの偏差値の水準自体に大きな変化はないが、ブロックによって増減の方向性（改善したか否か）に若干の差異がみられる。すなわち、偏差値の水準が高い 2 つのブロックのうち、東京湾岸が▲1.0 ポイント低下し、常磐・TX 沿線が＋0.8 ポイント上昇しており、前回 2.7 ポイントあった両者の差が 0.9 ポイントに縮小している。一方、偏差値が低い 2 つのブロックでは、アクアライン・圏央道が＋1.4 ポイント上昇、逆に銚子・九十九里・南房総は▲1.5 ポイント低下し、両者の偏差値は前回比逆転している。

（図表 5）ブロック別 総合偏差値の前回との比較



②分野別

東京湾岸ブロックは、「②教育」の偏差値が62.9と高い。これは、「可住地面積あたりの学校数が多い（定量）」ことや、中学・高校の進学校が多く「教育水準が高い（定性）」ことなどによるものとみられる。

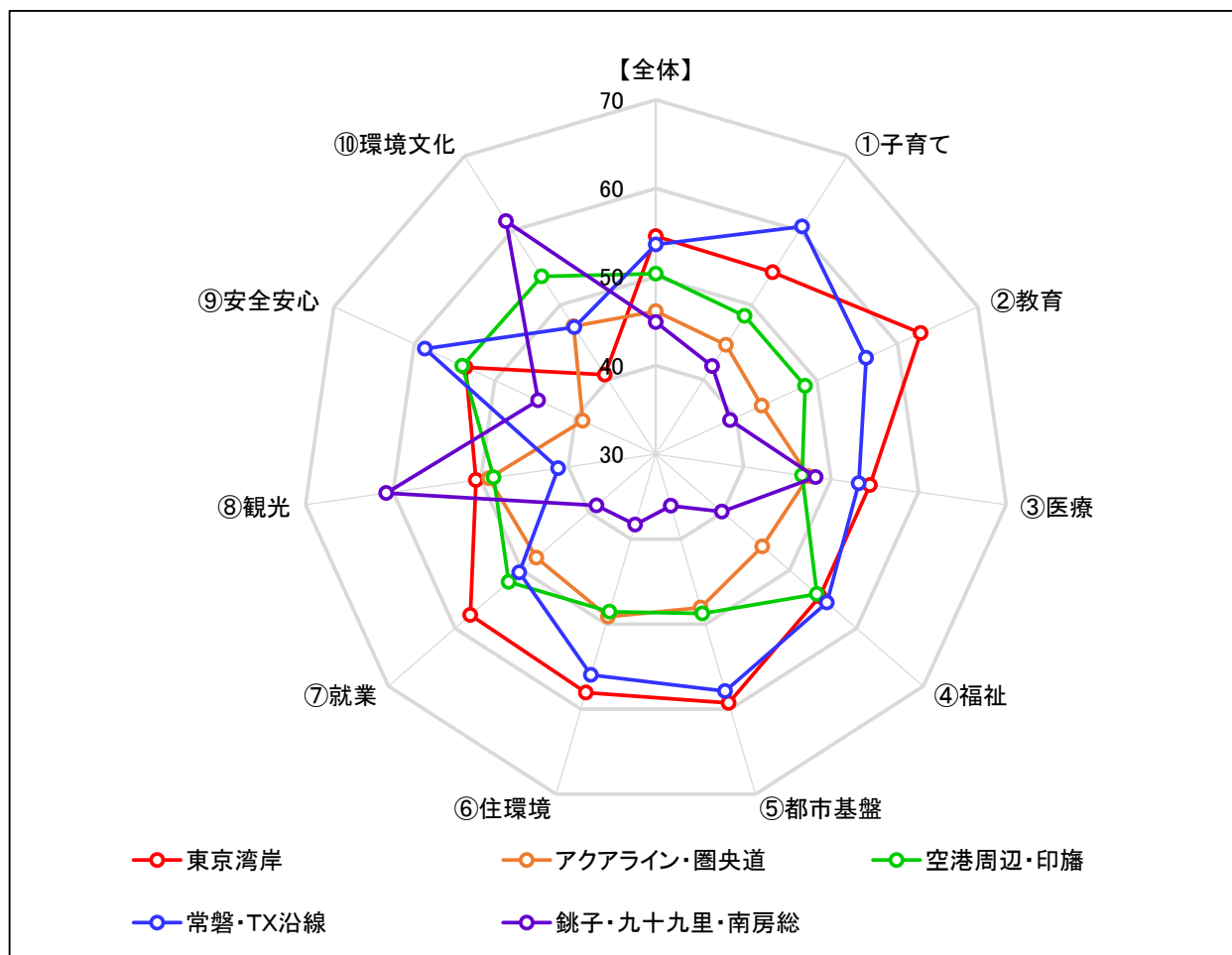
常磐・TX沿線ブロックは、「①子育て」（60.6）と「⑨安全安心」（58.7）の水準が高いことが目立つ。「子育て」は、定量要因では東京湾岸との差は小さいが、定性要因のうち「行政が子育て支援に力を入れている」、「子育てしながら働きやすい環境」で高い評価を得ている。「安全安心」は、「行政が防犯・防災対策に積極的に取り組んでいる」、「自然災害が少ない」の定性評価が高い。

両ブロックは「⑩環境・文化」の偏差値が低いが、これは地方部より自然が少なく、歴史・文化面の地域資源も相対的に少ないため。「⑧観光」は、常磐・TX沿線が相対的に低い一方で、東京湾岸は平均的な水準にある。これは突出して集客力の高いテーマパークがある浦安市の存在によるもの。

上記の2ブロックと対称的な特性にあるのが銚子・九十九里・南房総ブロックである。偏差値が全体的に低い中で、「⑧観光」と「⑩環境・文化」の偏差値は60超となっている。この地域は、自然と歴史・文化資産が豊かであり、それが統計データ（定量）や住民意識（定性）に反映されている。

空港周辺・印旛ブロックは、多くの分野で50前後と平均的な偏差値、またアクアライン・圏央道ブロックは、多くの分野で50をやや下回る偏差値となっている。

（図表6）ブロック別 分野別偏差値



ブロック別偏差値の前回比変化を分野別にみると、東京湾岸では「②教育」などが改善した一方、「③医療」、「④福祉」（コロナ患者急増時に都市部の医療・介護逼迫）や「⑧観光」（インバウンド需要消失、国内客も3密回避）などが悪化した。

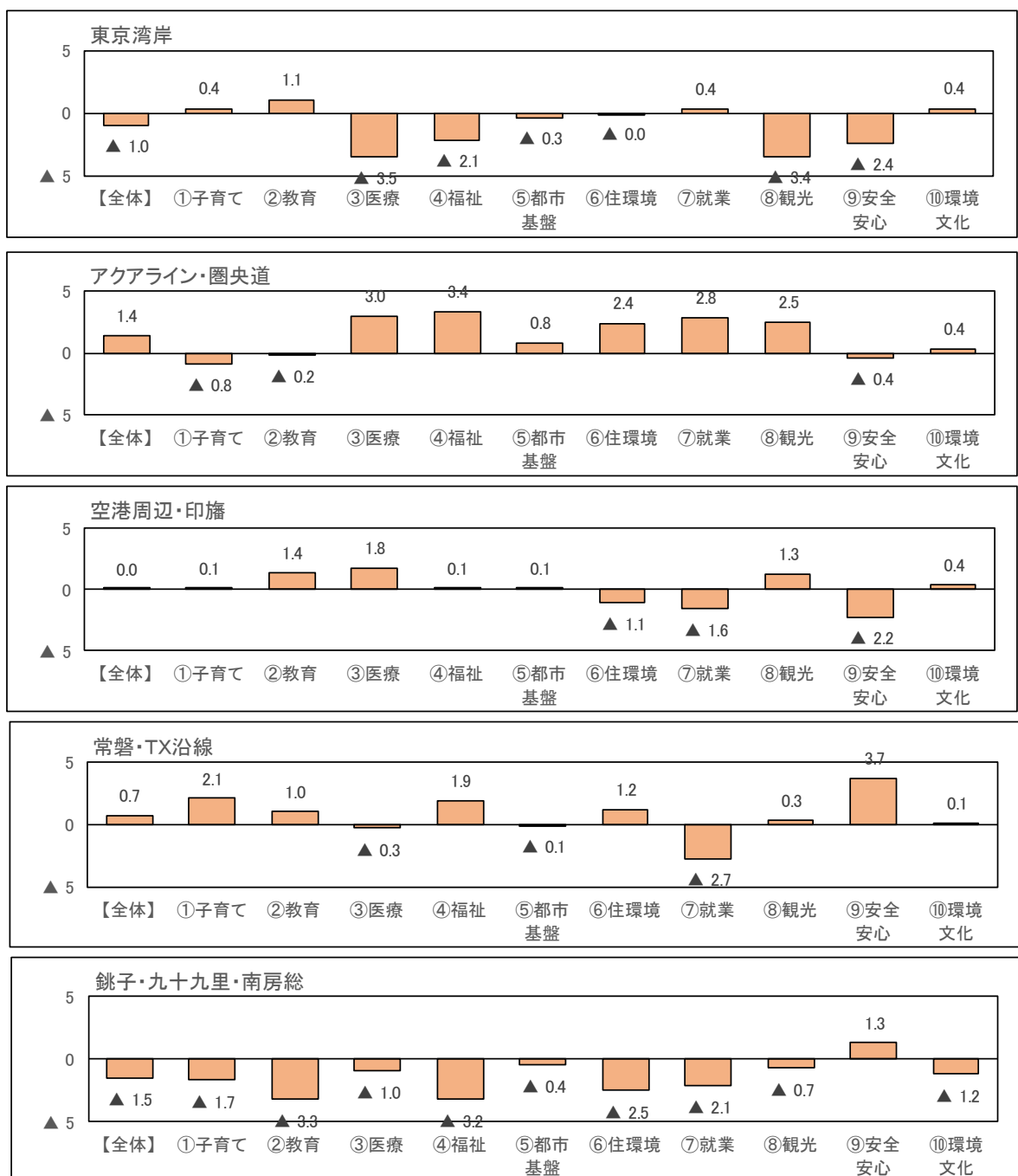
常磐・TX沿線では、「①子育て」、「②教育」などが一段と向上したほか、「⑨安全安心」、「④福祉」、「⑥住環境」なども大きく改善したことが、東京湾岸との差を詰める要因となった。

銚子・九十九里・南房総では、「⑨安全安心」を除くすべての項目が、過疎化の進展などを背景として悪化した。

空港周辺・印旛地域は、「③医療」（20年の国際医療福祉大学附属病院開院など）などで改善した反面、「⑨安全安心」、「⑦就業」などで悪化した。

この間、アクアライン・圏央道では、「③医療」、「④福祉」など、多くの分野で偏差値は改善している。

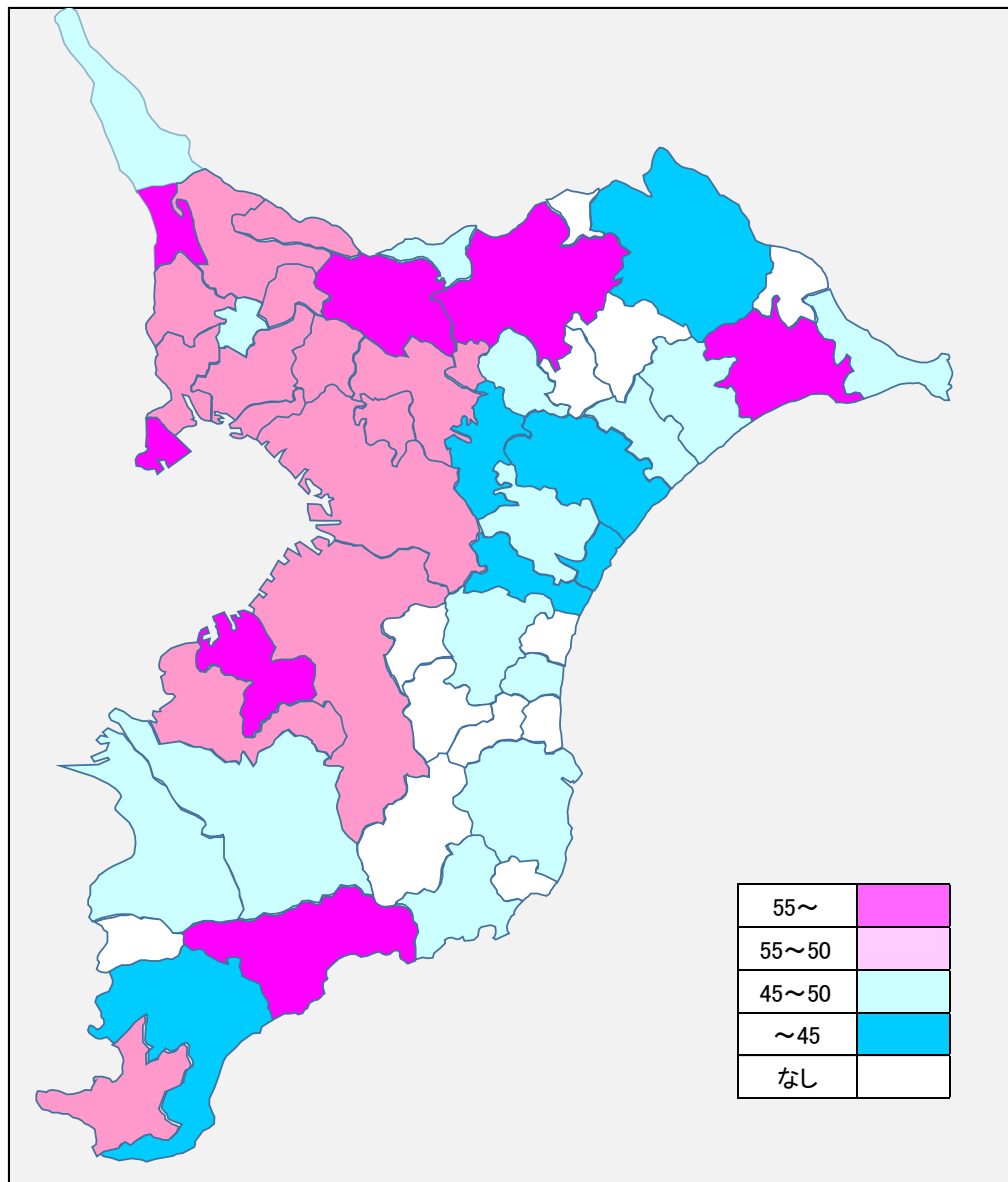
（図表7）ブロック別 分野別偏差値の前回比変化



(2) 自治体別

10 分野全体の偏差値を県内地図に落とし込んでみると、偏差値が高い自治体は県の北西部に、偏差値が低い自治体は太平洋沿岸の東部や南部に多い傾向がみてとれる。ただし、東、南部でも、旭市、鴨川市、館山市など、偏差値が 50 を超えている自治体がある。

(図表 8) 自治体別 10 分野全体の偏差値



※ 詳細については、後掲の「資料 1」を参照。

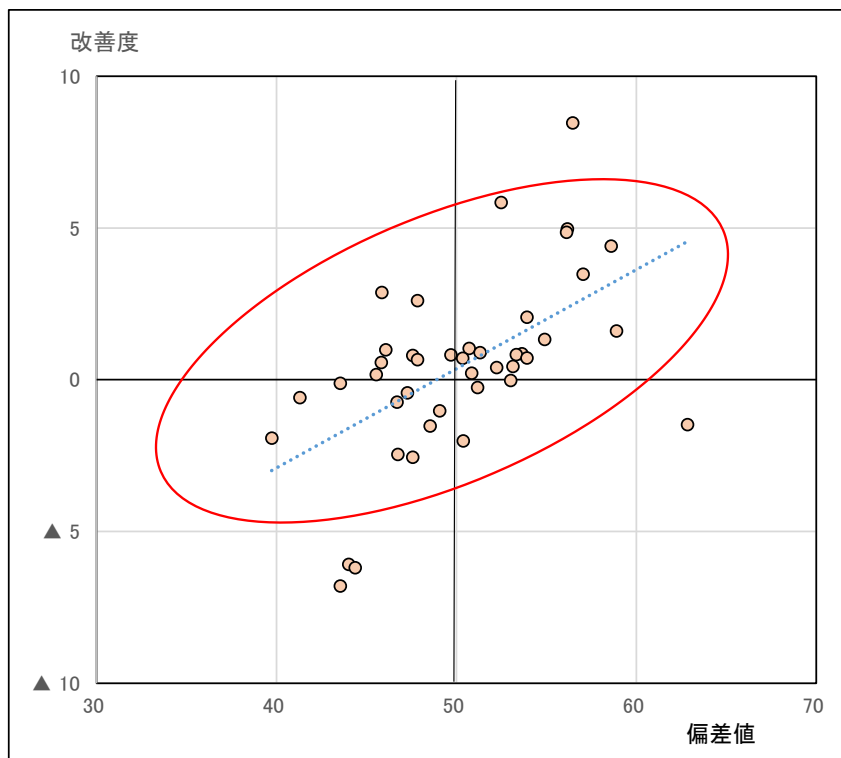
最も偏差値が高く、唯一 60 を超えている自治体は浦安市(62.8)で、以下成田市(58.9)、流山市(58.6)、印西市(57.0)の順となっている。一方、偏差値が低い自治体は八街市(39.7)、九十九里町(41.3)、大網白里市、山武市(ともに 43.5)などとなっている。

東、南部で偏差値が 50 超の自治体では、旭市は「③医療」(旭中央病院の存在)と「⑦就業」、鴨川市は「③医療」(亀田総合病院の存在)と「⑧観光」、館山市は「⑧観光」と「⑩環境・文化」の偏差値が高い。このように個別の分野で大きな特長を持つ地方部の自治体では、その分野で牽引して全体で高い偏差値を得ているといえる。

各自治体の 10 分野全体の偏差値の、前回からの改善度合いを算出したうえで、これを縦軸、今回の偏差値を横軸としてマトリックスで表示すると、図表 9 のとおりである。

この図表をみると、バラつきはあるものの、全体的には正の相関関係があることがわかる。これは、偏差値の水準が高い自治体は前回より偏差値が上昇しており、水準が低い自治体は低下しているということであり、結果として自治体間での較差が拡大しているといえる。偏差値が低下している自治体には、住民の満足度を高める取組みの一層の充実が求められている。

（図表 9）10 分野全体の「今回の偏差値」と「前回比」の相関関係



2. 定性調査、定量調査別の状況

(1) ブロック別

①10 分野全体

定性、定量それぞれの偏差値の範囲をブロック別にみると、定性項目が 40.8～57.0（幅：16.2）、定量項目が 47.2～54.1（幅：6.9）となっており、定性項目の方がバラつきは大きい。換言すると、自治体間の差異は定量調査では小さく、定性調査では大きい。すなわち、住民の抱くイメージである住民アンケート調査での較差が大きく、これが総合偏差値に大きく影響していることがわかる。

「定性一定量」の差に着目してブロックごとの違いをみてみると、定性項目の方が高い東京湾岸、空港周辺・印旛、常磐・TX沿線の3ブロックでは、「住民は統計データより良いイメージを持っている」といえる。特に常磐・TX沿線は両者の差異が6.7ポイントと大きく、統計データ上の実態より住民が相当良いイメージを抱いているようだ。

逆に定量項目の方が高いブロックはアクアライン・圏央道、銚子・九十九里・南房総の2つで、これらのブロックでは、「住民のイメージが統計データの水準を下回っている」とみられる。特に銚子・九十九里・南房総では、定量項目が49.0と50近傍であるのに対して、定性項目が40.8と大幅に低く、総合偏差値は44.9にとどまっている。

これは、自治体が住民の幸福度（Well-being）を高めるためには、住民向けの施策を強化するとともに、そうした施策を行っていることを上手に自治体内外にアピールすることも必要であることを意味するものである。こうした取組みを通じて、施策に対する住民のイメージ向上を図ることも、住民の満足感や幸福感を高めるうえでの重要な要素であるといえる。

（図表 10）ブロック別 総合（定性＋定量）・定性・定量の偏差値

ブロック	総合		定性		定量		定性一定量	
	偏差値	順位	偏差値	順位	偏差値	順位	増減	順位
東京湾岸	54.6	1	55.1	2	54.1	1	1.0	3
アクアライン・圏央道	46.2	4	45.1	4	47.2	5	▲ 2.0	4
空港周辺・印旛	50.4	3	51.9	3	48.8	4	3.1	2
常磐・TX沿線	53.7	2	57.0	1	50.3	2	6.7	1
銚子・九十九里・南房総	44.9	5	40.8	5	49.0	3	▲ 8.1	5

②分野別にみた定性と定量の関係

ブロックごとの総合、定性、定量の分野別偏差値を示すと以下のようになる。

(図表 11) ブロック別 分野別の総合（定性＋定量）・定性・定量の偏差値

		【全体】	①子育て	②教育	③医療	④福祉	⑤都市 基盤	⑥住環境	⑦就業	⑧観光	⑨安全 安心	⑩環境 文化
東京湾岸	総合	54.6	54.4	62.9	54.4	54.5	59.3	58.0	57.7	50.5	53.6	40.7
	定性	55.1	54.2	61.3	59.6	58.9	60.1	60.7	60.7	44.8	54.2	36.5
	定量	54.1	54.6	64.5	49.3	50.1	58.5	55.4	54.7	56.3	53.0	44.9
	定性-定量	1.0	▲ 0.3	▲ 3.3	10.3	8.8	1.6	5.4	5.9	▲ 11.6	1.1	▲ 8.4
アクアライン・ 圏央道	総合	46.2	44.7	43.1	47.4	45.9	48.0	49.1	47.8	49.1	39.1	47.2
	定性	45.1	42.8	43.9	45.2	43.0	46.1	45.7	48.7	50.6	38.9	46.3
	定量	47.2	46.6	42.4	49.7	48.8	49.9	52.6	47.0	47.5	39.2	48.0
	定性-定量	▲ 2.0	▲ 3.8	1.5	▲ 4.5	▲ 5.8	▲ 3.8	▲ 6.9	1.7	3.2	▲ 0.3	▲ 1.7
空港周辺・ 印旛	総合	50.4	48.6	48.6	46.7	54.1	48.8	48.6	52.0	48.5	54.0	53.9
	定性	51.9	52.7	52.2	50.7	52.3	52.5	50.4	48.2	44.1	59.5	56.5
	定量	48.8	44.4	44.9	42.7	55.9	45.0	46.8	55.8	52.9	48.6	51.2
	定性-定量	3.1	8.3	7.3	8.0	▲ 3.6	7.4	3.6	▲ 7.5	▲ 8.7	10.9	5.3
常磐・TX沿線	総合	53.7	60.6	56.1	53.2	55.6	57.9	56.0	50.4	41.1	58.7	47.0
	定性	57.0	64.7	58.6	60.9	61.2	58.7	59.7	59.5	41.4	60.3	45.2
	定量	50.3	56.5	53.7	45.4	49.9	57.0	52.2	41.3	40.9	57.1	48.8
	定性-定量	6.7	8.2	5.0	15.4	11.3	1.7	7.5	18.1	0.5	3.2	▲ 3.6
銚子・ 九十九里・ 南房総	総合	44.9	41.8	39.2	48.3	39.9	36.1	38.3	38.8	60.8	44.6	61.3
	定性	40.8	35.6	34.0	33.7	34.5	32.6	33.5	32.9	69.1	37.1	65.4
	定量	49.0	48.0	44.5	62.9	45.3	39.5	43.1	44.8	52.5	52.1	57.1
	定性-定量	▲ 8.1	▲ 12.4	▲ 10.5	▲ 29.2	▲ 10.8	▲ 6.9	▲ 9.6	▲ 11.8	16.6	▲ 14.9	8.3

東京湾岸では、「③医療」、「④福祉」などで定性が定量を上回り、逆に「⑧観光」で定量が定性を上回っている。定性項目のうち、「③医療」では「休日・夜間や緊急時にかかる医療機関がある」、「④福祉」では「介護が必要な人に対する行政の取組みが手厚い」の偏差値が高く、こうした面で統計実態（人口あたりの医師数、要介護認定率等）よりプラスのイメージを持たれていることがわかる。なお「⑧観光」は、浦安市の大型テーマパークの高い集客力が定量の偏差値を大きく底上げしているため、こうした結果となっている。

アクアライン・圏央道では、定性と定量の差異は最大で「⑥住環境」の 6.9 ポイントと、他のブロックに比べて相対的に小さい。総じて住民が各分野で、統計面からみたまちの実態（定量）に近いイメージ（定性）を抱いているといえる。

空港周辺・印旛では、「⑨安全安心」で定性が+10.9 ポイント上回っていることが目立つ。定性項目をみると「治安が良い」の設問（調査項目、以下同じ）に対する偏差値が高く、統計データ（人口あたりの犯罪件数等）よりも安全安心なまちと認識されていることが分かる。

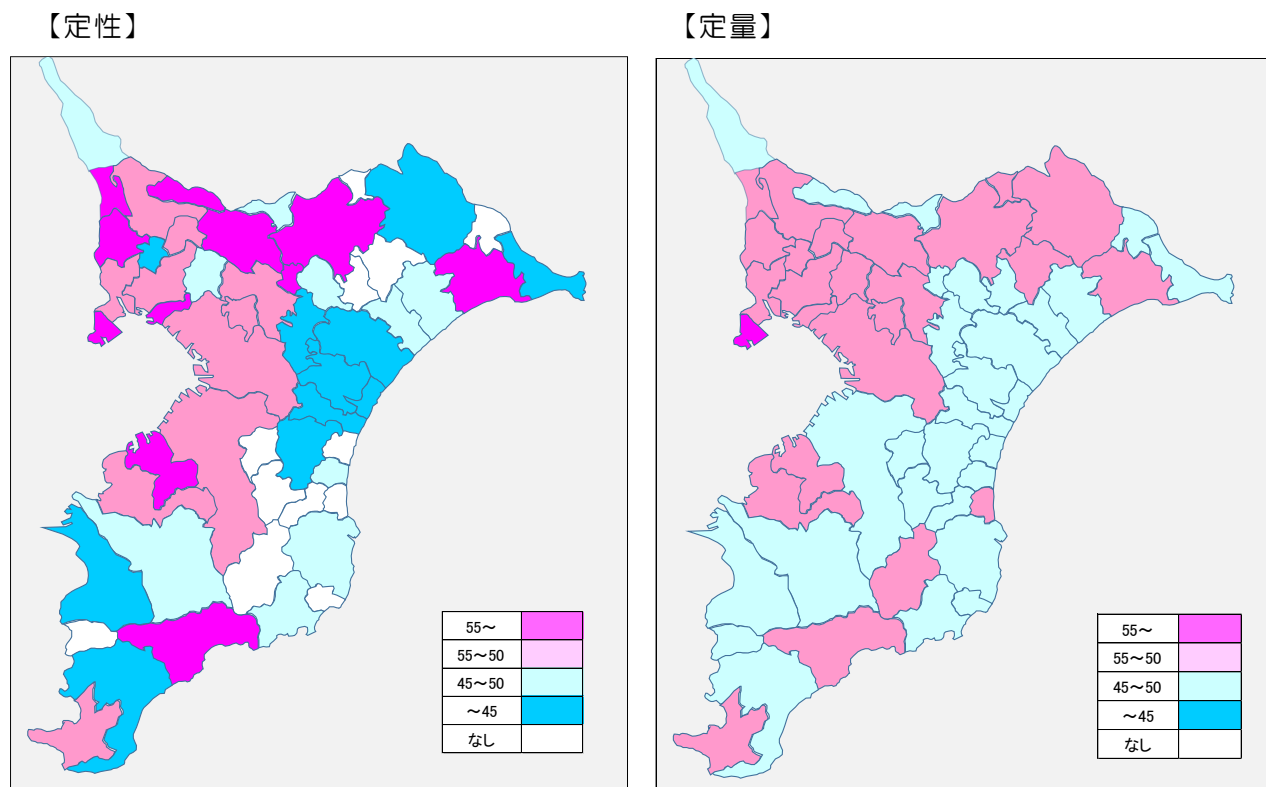
常磐・TX 沿線では、ほとんどの分野で定性が定量を上回っており、特に「③医療」、「⑦就業」でその傾向が強い。設問項目で「休日・夜間や緊急時にかかる医療機関がある」、「働く場が多い」などの偏差値が高いことが、こうした結果につながっている。

銚子・九十九里・南房総では、「⑧観光」、「⑩環境文化」以外の分野で定性が定量を下回っている。特に「③医療」の分野で差異が大きく、定性の設問で「医療・福祉施設が近くにあり、便利である」などの偏差値が低いことが影響している。

(2) 自治体別

定性調査と定量調査による偏差値の分布を地図上に表示すると、図表 12 のとおりである。模様の違いで表した市町村ごとの偏差値の高低差が、定量調査よりも定性調査の方が大きいことがみてとれる。

(図表 12) 自治体別 定性偏差値と定量偏差値



※ 詳細については、後掲の「資料 1」を参照。

定性評価で上位の 3 自治体は、浦安市（65.4）、成田市（64.6）、流山市（62.8）であり、この順がそのまま総合評価の順となっている（それぞれの総合評価：62.8、58.9、58.6）。

定性が定量より高い、すなわち住民が実際の統計データよりも良いイメージを持っている市町村としては、旭市、成田市、流山市、印西市などがあげられる。「統計データより良いイメージ」ということは、自治体が質の高いイメージ戦略に成功していることだといえる。好感度が高いまちのイメージは、外部から人を呼び込み、更にイメージが良くなるという好循環を生み、将来的なまちの発展につながる要因となりうる。

一方で、定性が定量より低い八街市（定性値一定量値＝▲13.9）、香取市（同▲11.3）、大網白里市（同▲10.4）、南房総市（同▲9.3）などは、住民に実態よりも低いイメージを抱かれている自治体といえる。八街市での児童の交通死傷事故など、対策を講じてマイナスイメージを払拭するのに時間を要するケースもあると考えられるが、社会インフラなどの定量要因に関しては都市部とさほど差がないことなどをアピールし、イメージアップに注力していくことが重要と思われる。

【コラム1】 自治体への「愛着度」と「居住継続意向」を決める要因

住民向けのアンケート項目のうち、「このまちが好きである（愛着度）」及び「このまちに長く住みたいと思う（居住継続意向）」の2つは、自治体にとって特に注目度が高い項目だと考えられる。地方自治体の役割は「住民の福祉の向上を図ることを基本とする」（地方自治法第1条2第1項）だが、両設問とも住民の Well-being（幸福度）を測る指標であり、住民の福祉状態に大きく関係する。

ところで、この愛着度と居住継続意向を決める要素は何だろうか？ それを知るために、「愛着度」、「居住継続意向」を被説明変数、10分野の定性偏差値を説明変数とする、単純回帰分析（54市町村の、複数の指標の関係を分析する「クロスセクション分析」）を行ってみた。

その結果（図表13）をみると、「愛着度」に関連する決定係数（両者の相関度合いの高さを示す指標）が最も高かった分野は「④福祉」で、決定係数は0.708と、相関度はかなり高い。以下「①子育て（0.625）」、「⑨安全安心（0.594）」、「③医療（0.591）」の順となっている。「⑥住環境」は0.554、「⑤都市基盤」は0.504であり、全体的にみると、「都市基盤」、「住環境」などのハード面よりも、「福祉」、「子育て」などのソフト面の方が、居住地への愛着度との関係がやや強い傾向がみてとれる。一方、「⑧観光」、「⑩環境・文化」との間の決定係数は、それぞれ0.009、0.042で、愛着度と両者の間に相関関係はほとんどみられない。

居住継続意向の決定要素も、愛着度と似た傾向にある。「④福祉（0.668）」、「⑨安全安心（0.598）」、「①子育て（0.584）」、「③医療（0.512）」などの決定係数が相対的に高い。

「居住する場所」を選択するには様々な要素が関係するため、一概に断定することはできないが、居住継続意向との相関関係が高いということは、「その分野の満足度が高ければ、将来も居住し続ける可能性が高い」ということを意味する。自治体として、「住民の福祉（幸福度）を向上させ、住民を増やす（＝転出を減らし、転入を増やす）」ためには、相関関係が強い分野への積極的な取組みが重要と考えられる。

（図表13）「愛着度」、「居住継続意向」と10分野との間の相関関係（決定係数）

	①子育て	②教育	③医療	④福祉	⑤都市基盤	⑥住環境	⑦就業	⑧観光	⑨安全安心	⑩環境文化
愛着度との間の決定係数	0.625	0.541	0.591	0.708	0.504	0.554	0.373	0.009	0.594	0.042
（順位）	2	6	4	1	7	5	8	10	3	9
居住意向との間の決定係数	0.584	0.470	0.512	0.668	0.433	0.458	0.305	0.086	0.598	0.050
（順位）	3	5	4	1	7	6	8	9	2	10

※自治体別の「愛着度」、「居住継続意向」については、後掲の「資料2」参照

2章. 住民の満足度の絶対的水準の把握

1. 10分野全体・分野別

(1) 県内全体

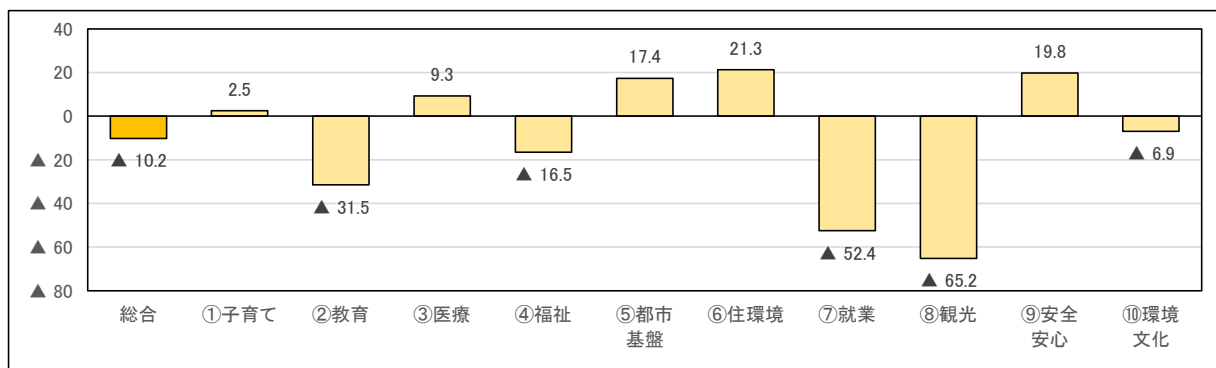
前章では、定性調査（住民アンケート）と定量調査（統計データ）の結果を市町村ごとに偏差値化して、千葉県内のブロック別・自治体別に、分野ごとの水準比較や経年比較を行ってきたが、この章では、偏差値化する前の住民アンケートの結果（住民意識の絶対水準）を満足度指数として整理する。

今回の県民アンケート調査（3,000名）で、10分野40項目すべての設問への回答の平均値である『総合的な満足度指数（算出方法：「分析の手法」参照。肯定的回答の数と否定的回答の数が同じなら、値は0となる）』は、▲10.2であった。これは、トータル的にみて県民は自らの自治体に、十分には満足していないことを意味しており、自治体は注意する必要がある。

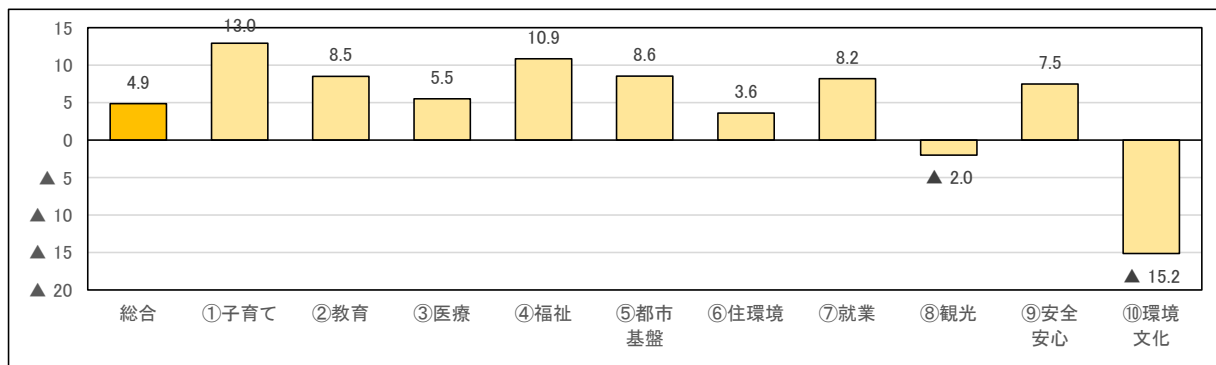
分野別にみると、「⑧観光（▲65.2）」、「⑦就業（▲52.4）」で特にマイナス幅が大きいことが目立つ。「⑧観光」については、人口が多い（＝回答数が高い）都市部での弱さが背景にある。また「就業」に関しては、居住する自治体での働く場としての満足度が低いことが窺われる。一方で、「⑥住環境」、「⑨安全安心」、「⑤都市基盤」は+20前後であり、住民は、生活環境面については比較的良好なイメージを抱いていることが分かる。

なお、前回と比較してみると、総合のほか8つの分野でアンケート結果は改善しており、今回の調査で▲52.4と低かった「就業」も前回比では改善している。この間、「⑩環境・文化」は、前回比大きく低下している。内訳をみると「地域の行事（祭り・イベント等）が活発に行われている」の低下幅が大きく、コロナ禍で地域の行事やイベント開催が減少していることが影響したとみられる。

（図表 14）10 分野全体・分野別の総合的な満足度指数



（図表 15）10 分野全体・分野別の総合的な満足度指数の前回調査との比較（改善度）

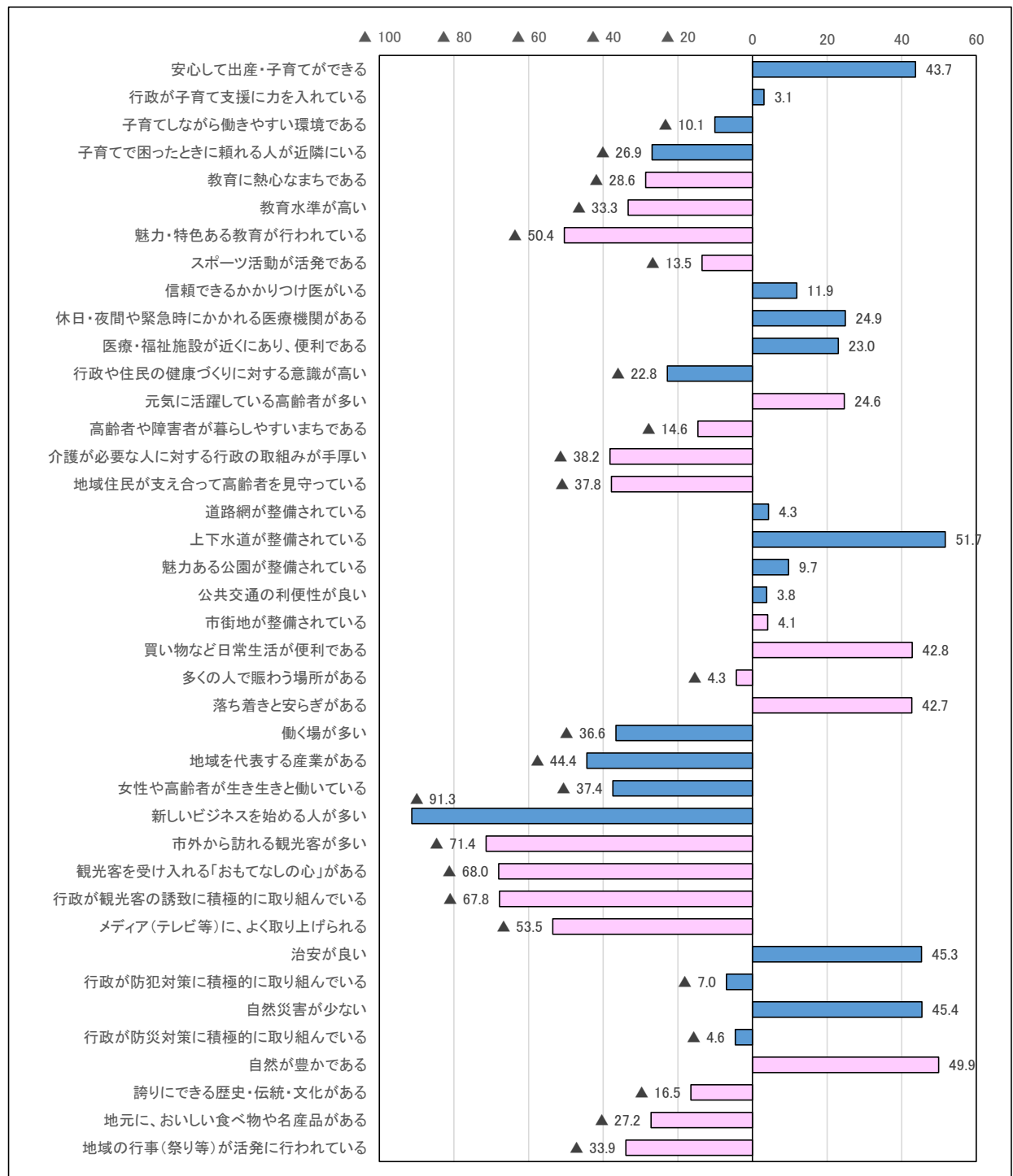


10分野 40項目それぞれの満足度指数は以下のとおり。

「上下水道が整備されている」(+51.7)、「自然が豊かである」(+49.9)などと並んで、「安心して出産・子育てができる」も+43.7と高い水準にあることが目立つ。近年の各自治体による子育て関係施策の強化がこのアンケート結果につながっていると考えられる。

一方、「就業」、「観光」分野の各設問の指数は総じて低く、就業分野の「新しいビジネスを始める人が多い」が▲91.3で、40項目中最も低い数値であった（前回も▲99.5で最低値。今回は若干改善）。これは、県内のインキュベーション機運向上の必要性について改めて認識させられるものであり、改善に向けた取組みが求められる。

（図表 16）定性調査 40 項目の満足度指数



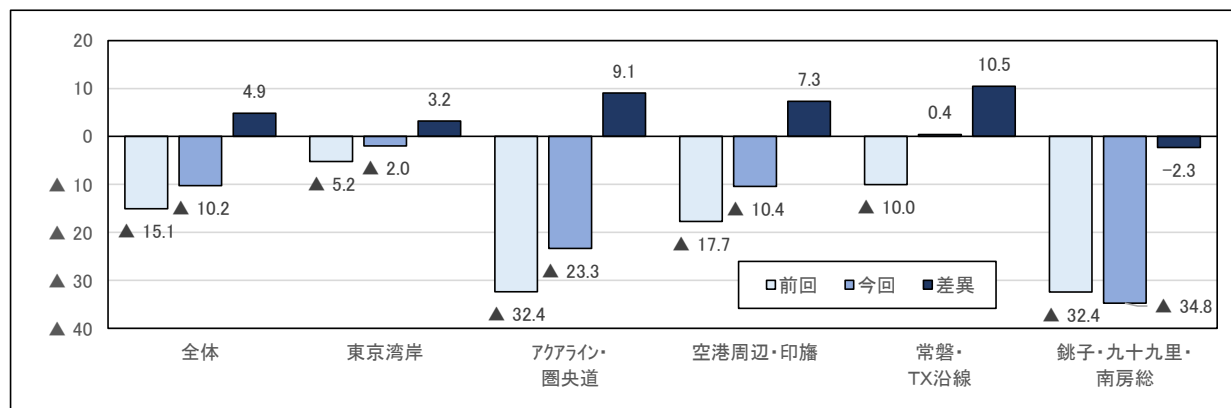
※ 「①子育て」から「⑩環境文化」の分野（各 4 項目）ごとに、グラフの配色を入れ替えて表示

(2) ブロック別

ブロックごとの 10 分野全体の総合的な満足度指数（以下、「総合満足度指数」）をみると、常磐・TX 沿線のみ+0.4 とわずかながらプラスで、以下東京湾岸（▲2.0）、空港周辺・印旛（▲10.4）、アクアライン・圏央道（▲23.3）、銚子・九十九里・南房総（▲34.8）の順でマイナスとなっている。

前回との比較では 4 ブロックで改善しており、その中でも常磐・TX 沿線、アクアライン・圏央道で改善幅が大きい。銚子・南房総・九十九里は、唯一前回より水準が低下しており、その結果、指数は 5 ブロック中で最も低くなっている。

（図表 17）ブロック別 総合満足度指数と前回調査との比較



(3) 自治体別

次に、自治体ごとの総合満足度指数をみると、「プラスの自治体」が 10 自治体で、「マイナスの自治体」が 32 自治体となっている。

指数が最も高い自治体は浦安市であった（+44.7）。10 分野のうち「⑤都市基盤」、「⑥住環境」など 4 分野が首位で、住民の満足度が高いことがみてとれる。

以下、成田市（+37.2）、流山市（+29.4）、旭市（+22.8）と続いている。

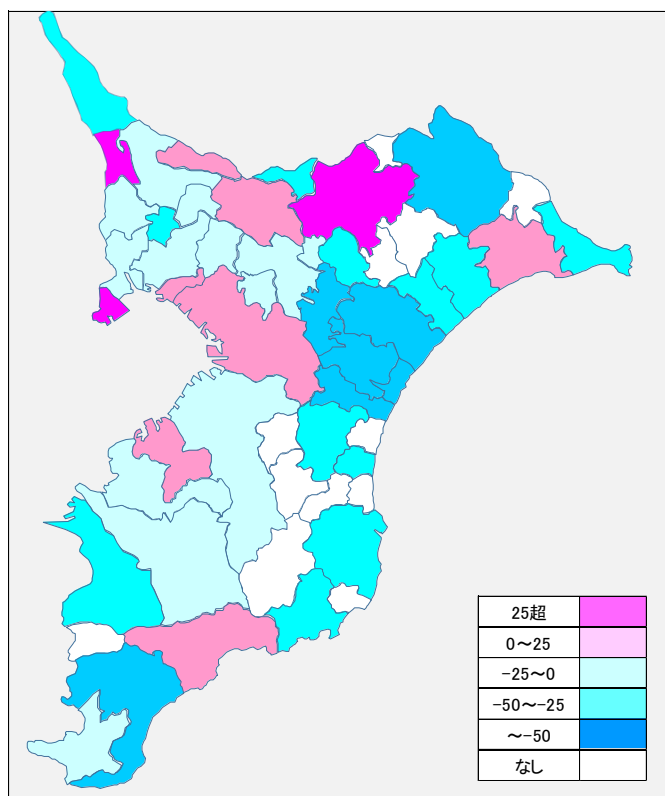
成田市は、「⑩環境・文化」、「⑧観光」などで住民評価が高く、空港を中心としたわが国の玄関口としての機能だけでなく、新勝寺などの観光地としての機能の両方を併せ持っていることが評価されていると考えられる。

TX 沿線の開発が進んでいる流山市は、「⑥住環境」、「①子育て」、「⑤都市基盤」などの評価が高い。

旭中央病院を擁する旭市は「③医療」などが県内首位となっている。

※ 成田、流山、旭の 3 市に関する考察は「コラム 2」に掲載する。

（図表 18）自治体別 総合満足度指数



(図表 19) 総合満足度指数の上位4自治体(全体及び高評価の分野と前回比較)

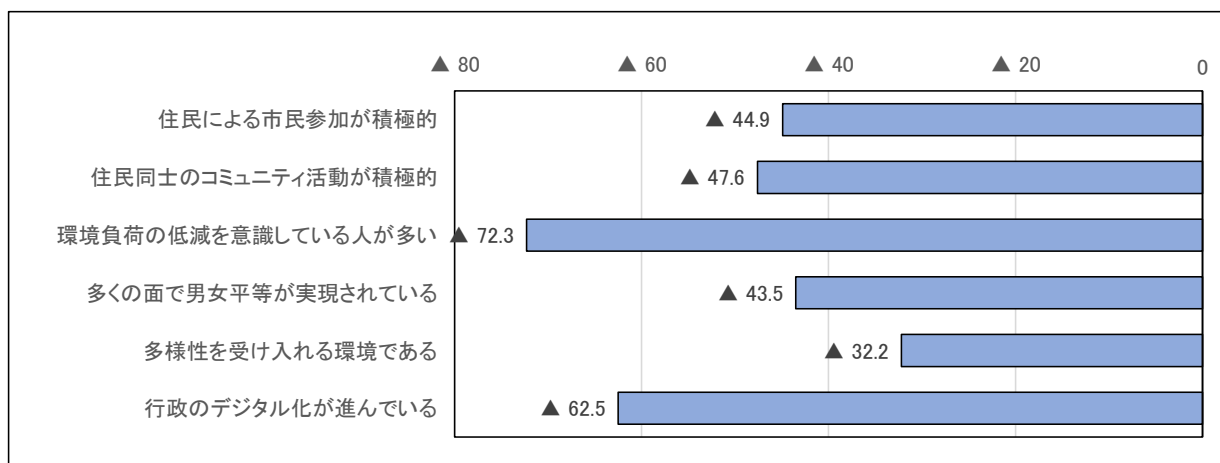
自治体	総合満足度指数			(参考) 今回 偏差値	自治体	総合満足度指数			(参考) 今回 偏差値
	前回	今回	前回比			前回	今回	前回比	
浦安市(全体)	50.6	44.7	▲ 5.9	65.4	流山市(全体)	0.4	29.4	29.0	62.8
⑤都市基盤	94.0	99.7	5.7	69.6	⑥住環境	44.3	78.4	34.1	66.9
⑥住環境	102.7	94.7	▲ 8.0	70.1	①子育て	37.6	73.7	36.1	73.4
⑧観光	86.6	68.9	▲ 17.7	73.0	⑤都市基盤	36.8	65.0	28.2	63.6
③医療	66.6	49.1	▲ 17.5	63.7	旭市(全体)	▲ 19.7	22.8	42.5	62.0
成田市(全体)	27.3	37.2	9.9	64.6	③医療	29.4	80.1	50.7	72.0
⑩環境・文化	74.2	79.0	4.8	74.0	①子育て	13.6	56.8	43.2	68.4
⑧観光	88.3	64.7	▲ 23.6	72.2	⑥住環境	▲ 1.7	42.5	44.2	59.8
③医療	24.2	54.7	30.5	65.2	(参考)県内全体	▲ 15.1	▲ 10.2	4.9	—

(注) 浦安市は、今回の総合満足度指数が 44.7 (偏差値は 65.4) で、全自治体の中で最も高い数値だが、前回の 50.6 と比較すると▲5.9 となっている。その主な要因は、⑧観光、③医療の両分野での低下である。ともに今回の偏差値は 73.0、63.7 と高水準ではあるものの、⑧観光については、コロナ禍での TDR への来場者が減少したこと、③医療については、医療に対する市民の期待が高い中で、コロナへの対応が期待する水準に及ばないと意識されたことが背景にあると推察される。

2. 協働、SDGs、多様性、行政デジタル化などに対する評価

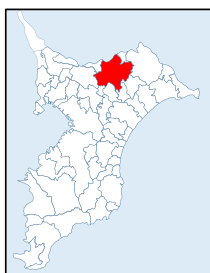
協働、SDGs、多様性、行政デジタル化などの設問に対する満足度指数をみると、全ての項目が大きなマイナスとなっている。各自治体は、自らの数値を認識したうえで、改めて現在の立ち位置を確認しつつ施策立案に取り組んでいただければ幸いである。

(図表 20) 県全体の各項目の満足度指数



※ 自治体別の各項目の満足度指数については、後掲の「資料3」参照

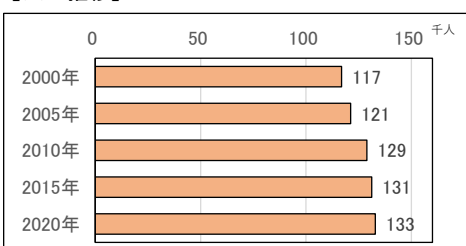
【コラム2】偏差値が高い自治体についての考察 ①「成田市」



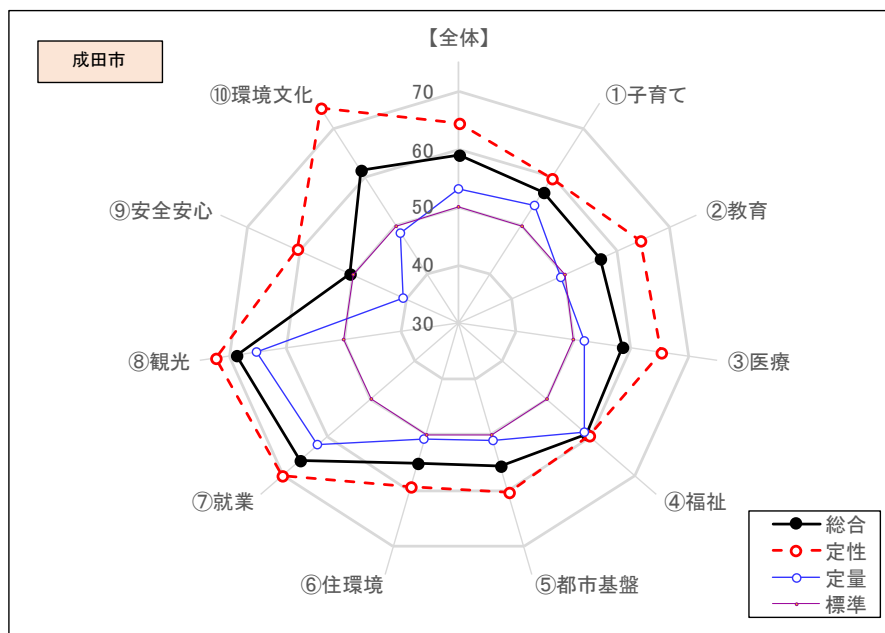
【主要データ】

項目	数量	順位
2020年人口(人)	132,906	14
2010～20年人口増加率	3.1%	13
2020年高齢化率	24.1%	6
総面積(km ²)	213.8	6
人口密度(人/km ²)	622	27
2020年度地方税収額(億円)	324	8

【人口推移】



【偏差値データ】



		【全体】	子育て	教育	医療	福祉	都市基盤	住環境	就業	観光	安全安心	環境文化
総合	偏差値	58.9	56.9	56.9	58.5	59.1	55.7	55.1	66.2	68.7	50.6	61.3
	順位	2	7	10	4	3	17	12	2	2	22	4
定性	偏差値	64.6	59.6	64.5	65.2	59.6	60.3	59.3	70.2	72.2	60.6	74.0
	順位	2	9	5	3	7	6	10	2	3	7	1
定量	偏差値	53.2	54.3	49.3	51.8	58.6	51.2	50.9	62.1	65.1	40.5	48.6
	順位	7	10	23	14	1	23	21	4	3	50	28

◇データ分析のポイント

- 人口は県内 14 位で、過去 10 年で+3.1%と着実に増加を続けている。高齢化率も低く、県内 6 位。
- 10 分野全体の偏差値は 58.9 で 2 位。「就業」、「観光」、「福祉」など、各分野ともまんべんなく高い水準。
- 10 分野全体では「定性(64.6)」>「定量(53.2)」で、その差は 11.4 と大きい。
- 「環境文化」など多くの分野で両者の差は大きく、市民は市に実態より良いイメージを持っているといえる。

◇考察(高評価となった背景)

- 本市は、成田空港と成田山新勝寺という産業面と観光面、両方の核となる地域資源を有する自治体であるが、定量調査では県内 7 位で、実態は「突出して高い水準にある」とまではいえない状況にある。
- そうした中で、更なる市の発展を目指して、国家戦略特区の指定に伴う学術・医療集積拠点の形成や成田公設地方卸売市場の移転・輸出拠点化等を推進。こうした市の主体的・積極的な取り組みが、教育、医療、都市基盤等の分野での定量を大きく上回る高い定性評価につながり、総合評価が 2 位となった。

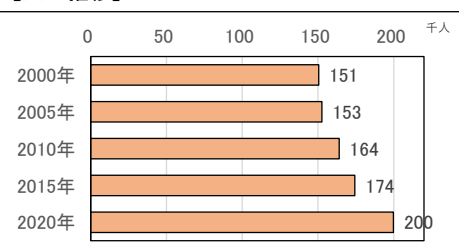
②「流山市」



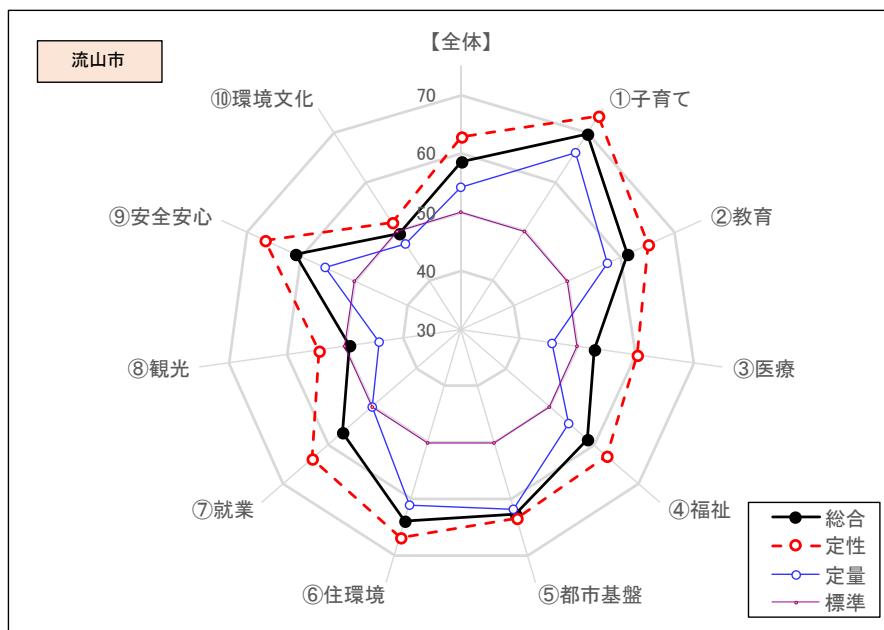
【主要データ】

項目	数量	順位
2020年人口(人)	199,849	7
2010～20年人口増加率	21.9%	1
2020年高齢化率	23.5%	5
総面積(km ²)	35.3	42
人口密度(人/km ²)	5,658	6
2020年度地方税収額(億円)	304	9

【人口推移】



【偏差値データ】



		【全体】	子育て	教育	医療	福祉	都市基盤	住環境	就業	観光	安全安心	環境文化
総合	偏差値	58.6	69.7	61.2	53.1	58.5	62.8	64.0	56.8	49.3	61.1	49.6
	順位	3	1	4	12	5	2	1	9	16	2	19
定性	偏差値	62.8	73.4	65.0	60.4	62.7	63.6	66.9	63.5	54.4	66.7	51.8
	順位	3	1	4	6	4	3	2	4	12	2	16
定量	偏差値	54.4	65.9	57.5	45.7	54.2	62.0	61.2	50.1	44.1	55.5	47.4
	順位	2	1	9	44	10	3	2	29	54	10	32

◇データ分析のポイント

- 人口は県内7位。過去10年の増加率は+21.9%で首位。子育て世帯の転入増により、高齢化率も低い。
- 10分野全体の偏差値は58.6で県内3位。各分野とも高水準だが、特に「子育て」と「住環境」は首位。
- 10分野全体では「定性(62.8)」>「定量(54.4)」で、その差は8.4。
- 分野別では、「医療」や「観光」など定量評価が低い分野も含めて、全分野で定性評価が上回っている。

◇考察(高評価となった背景)

- TX 沿線における新たな市街地開発の進展を機会として捉え、「母になるなら、流山市。」のキャッチコピーで、首都圏各駅でプロモーションを実施するなど、「子育てのまち」としてのイメージを徹底的に訴求。
- 保育所の充実に加えて、駅前送迎保育ステーションの設置など、独自色が高い施策を展開し、子育て世帯の転入が増加。こうした市の取り組み及びそれによる人口増加という実績が市民に評価され、子育て以外の分野も含めて、全体的に実態である定量を上回る定性評価となった。

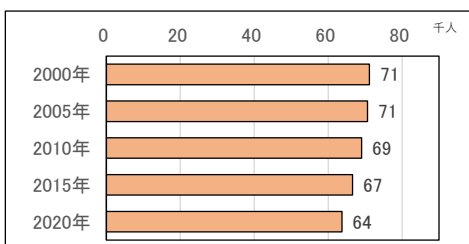
③「旭市」



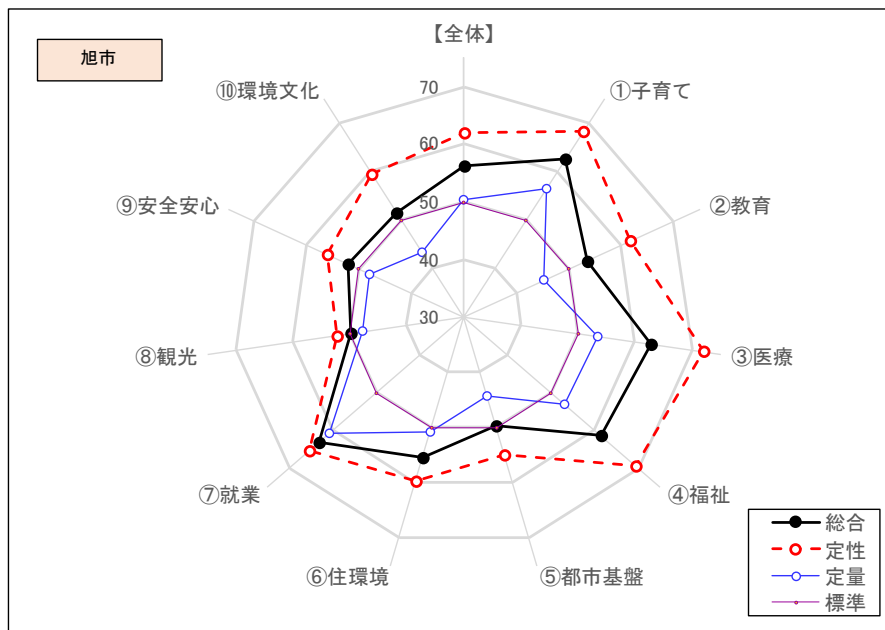
【主要データ】

項目	数量	順位
2020年人口(人)	63,745	24
2010～20年人口増加率	-7.7%	28
2020年高齢化率	31.4%	23
総面積(km ²)	130.5	12
人口密度(人/km ²)	489	31
2020年度地方税収額(億円)	78	26

【人口推移】



【偏差値データ】



		【全体】	子育て	教育	医療	福祉	都市基盤	住環境	就業	観光	安全安心	環境文化
総合	偏差値	56.2	62.5	53.6	62.8	61.4	49.6	55.3	63.3	49.9	52.0	51.4
	順位	6	2	16	2	2	24	11	3	15	16	13
定性	偏差値	62.0	68.4	61.8	72.0	69.6	55.0	59.8	65.5	52.1	56.1	59.5
	順位	4	2	7	1	1	18	8	3	13	13	7
定量	偏差値	50.4	56.6	45.3	53.5	53.2	44.2	50.9	61.0	47.7	47.9	43.4
	順位	22	4	42	11	15	41	22	7	29	37	53

◇データ分析のポイント

- 人口は県内 24 位、増加率も▲7.7%で 28 位。主要データの順位は中位にある。
- 10 分野全体の偏差値は 56.2 で県内 6 位。「子育て」、「医療」、「福祉」、「就業」などが高い水準にある。
- 全体では「定性(62.0)」>「定量(50.4)」。
- 定量では偏差値 50 未満の分野も散見されるが、定性では各分野とも高水準。特に「医療」で差が大きい。

◇考察(高評価となった背景)

- 人口減少基調が続く中で、地方創生の観点から旭中央病院を市の中核的地域資源と捉え、これを核とする官民連携による「生涯活躍のまち みらいあさひプロジェクト」計画を推進。今年 4 月にまちびらきに至る。
- 県内でも地方部に位置する自治体であり、実態である定量調査の偏差値は決して高い水準ではないことは否めない中で、官民連携によって進められた、市をあげての大型プロジェクトの実現が、医療や福祉をはじめ多くの分野で高い水準の定性評価につながり、総合評価でも県内 6 位という結果となった。

3 章. まとめ～分析結果からの提言

本調査では、各自治体について「県内における定性・定量レベルの相対的な水準」と「定性レベル（住民の満足度）の絶対的な水準」を明らかにすることを目的とした。調査結果の要点は以下のとおり。

- ①住民の満足度（住民意識の絶対水準）は、多くの自治体で前回（2015 年）比改善した。その意味で、県内の地方創生の取り組みには、この間一定の進捗（成果）があったといえる。もっとも、その絶対水準は依然としてマイナス超である。
- ②総合評価（定性評価＋定量評価）による偏差値は、前回同様に都市部で高く地方部で低い傾向にある。常磐・TX 沿線が上昇した反面、銚子・九十九里・南房総では住民の満足度低下に歯止めが掛からないなど、県内での較差は前回比拡大している。
- ③住民の意識をあらわす定性調査の方が、統計データによる定量調査よりも自治体間の高低差が大きい。すなわち、住民の満足度のイメージの方が自治体間で差異が大きく、これが総合偏差値に大きく影響している。
- ④居住する自治体への愛着度、居住継続意向の偏差値と、分野ごとの偏差値の間の相関関係は、分野ごとに差異があり、福祉や子育ての分野との相関度がやや高い。

ここでは、住民アンケートと統計データによって導き出されたこれらの調査結果を踏まえて、今後県内自治体が、持続可能なまちづくりに向けて、施策や事業の立案を継続していくにあたって求められる方針（基本的考え方）についての提言を行う。

■ 提言 1 「数値で明確となった課題の認知と対応策の推進」

今回の調査では 10 の分野における 40 項目の大規模なアンケート調査と、47 項目の定量的なデータ調査を行い、自治体間の比較を行うことによって、各自治体の現状を相対的な「数値」で提示した。

例えば、各自治体では住民意識調査が実施されているが、これはあくまでも域内の調査結果であり、他自治体と比較してどの程度の水準かが不明である。今回のアンケート調査は、同じ設問・選択肢という統一された基準で全自治体の住民から回答を求めたものであり、その結果により、近隣自治体との相対的な優劣の比較が可能である。

今回の調査で他の自治体に及ばないことが判明した分野は、「なんとなく劣っているのではないかと感じている分野」ではなく、「住民アンケートと統計データという一定の根拠に基づいて明らかとなった、改善の必要な分野」である。満足度の回答結果も含めて、「ここで示された数値は、自らの現状を表している」と捉えていただきたい。そして行政の担当者はもとより、産学金など、関係者が本稿の調査結果を参考に、各自治体の強みと弱み、機会と脅威を再確認し、地域の特性を活かした地域活性化策を引き続き策定してほしい。

■ 提言2 「住民のイメージを高めるイメージアップ戦略の展開」

本調査では、統計データで示された実態よりも満足度が高い自治体と低い自治体があり、その差が実態の差よりも大きいことが浮き彫りになった。

満足度の偏差値の方が高い（定性＞定量）自治体は成田市、流山市、旭市などで、いずれも定量調査の水準も50超の水準にあるが、定量データ以上に住民が自らの自治体に好印象を抱いているといえる。

これらの自治体には共通点がある。それは、他の自治体とは違う特長を有し、あるいは創り出して、それを前面に打ち出したまちづくりを行っているということである。

成田市は、成田空港の立地という強みだけに依存することなく、国家戦略特区の指定に伴う学術・医療集積拠点の形成など、主体的な取組みを着実に進めている。流山市は、T×開通という好機を活かして「子育てのまち」を積極的にアピールし、イメージの浸透に成功した結果、県内一の人口増加率を達成している。旭市では、長期に亘って官民協働で推進してきた、旭中央病院を中心とした拠点整備計画である「みらいあさひプロジェクト」が今年実現した。このような各自治体の取組みが、住民のまちへのイメージを向上させたことは間違いない。また、まちのイメージアップが、さまざまな面で地域の活性化に繋がることも確かだといえる。

イメージを向上させるためには、中長期的なスパンで着実にプロジェクトを進めることが重要だが、ブランディングプランの作成やフィルムコミッション等を通じた地域の魅力の積極的な発信などの対策も効果的である。「まちのイメージアップを図る」という意識を行政が高め、そのための専門部署を設置し具体的な取組みを実施するなど、組織として戦略を展開していく必要がある。

■ 提言3 「将来の居留意向と相関性が高い分野の取組強化」

今回、「将来の居留意向の偏差値」と「各分野の満足度の偏差値」との相関関係を決定係数で提示した。ある分野の満足度と居留意向の相関度が高いということは、その分野で「満足度が高いと将来も住み続けたいと感じる人の比率が高く、満足度が低いと住み続けたいと感じる人の比率が低い」ということだといえる。

相関関係が高い分野は「福祉」、「安全安心」、「子育て」など、主に日常生活に直接的に関わる分野であった。さらに詳しく個別設問ごとの相関度を調べてみると、「行政が防災対策に積極的に取り組んでいる」、「安心して出産・子育てができる」、「元気に活躍している高齢者が多い」の順で、居留意向との相関度が高くなっている。こうした面で住民を満足させることができれば、将来の居住継続につながるものと考えられる。

この住民アンケートの対象は居住者であり、「転出防止」という効果が期待できることを意味するものだが、「居住したい」と考えるまちのイメージは、自治体内外で概ね同じと考えられ、こうした分野の取組みの強化は「転入促進」という観点でも重要と思われる。

もとより他の分野の重要性が低いわけではなく、自治体としては幅広い分野で施策を講じていく必要がある。ただ、今回の調査結果から、相対的にみると上記分野の取組みの強化が将来の居住につながる可能性が高いということがわかった。財政状況が厳しい自治体にとって、限られたヒトやカネといった経営資源をどのように割り振るかの判断の重要性は、ますます高まっていくだろう。人口の維持・増加という面からみると、居留意向とこうした分野との相関関係が高いという今回のデータは、自治体が経営資源を効果的に配分していくうえでの判断材料の1つになると考えられる。

以 上

(資料1) 自治体別「総合」、「定性」、「定量」偏差値一覧

(1) 総合評価

	自治体	【全体】	①子育て	②教育	③医療	④福祉	⑤都市基盤	⑥住環境	⑦就業	⑧観光	⑨安全安心	⑩環境文化
東京湾岸	千葉市	53.6	53.5	57.5	55.1	53.2	60.3	57.9	53.9	50.3	51.6	43.1
	市川市	53.3	55.4	58.7	50.9	53.0	59.4	57.3	58.9	45.3	51.0	43.5
	船橋市	53.9	53.1	62.4	51.0	52.6	59.2	56.4	57.0	51.9	52.4	43.0
	習志野市	54.9	53.7	68.7	53.1	55.1	61.3	56.7	55.1	46.5	57.4	41.3
	八千代市	50.8	50.4	53.1	52.2	48.9	58.1	56.8	50.1	41.1	53.9	43.7
	鎌ヶ谷市	47.6	48.5	50.3	46.0	47.6	51.3	48.9	44.3	42.3	53.3	43.2
	浦安市	62.8	58.2	71.4	57.4	63.7	66.5	62.1	66.6	78.1	57.8	46.8
アクアライン・圏央道	木更津市	51.2	47.5	51.0	52.8	48.5	51.7	54.2	52.2	59.5	46.0	48.3
	茂原市	45.5	47.6	47.2	50.3	45.0	48.3	49.0	45.0	42.6	40.2	40.1
	東金市	45.8	44.4	43.0	48.3	47.5	48.2	48.6	47.1	43.9	42.0	45.3
	市原市	50.3	51.6	50.0	50.5	50.7	53.4	52.1	53.8	49.2	44.2	48.2
	君津市	49.7	47.9	49.1	48.1	51.8	50.4	50.3	53.5	48.8	48.5	48.5
	富津市	45.8	45.5	42.0	43.6	47.4	43.4	43.0	45.5	49.2	48.0	50.9
	袖ヶ浦市	56.1	60.0	54.5	53.2	58.6	58.3	58.9	57.9	51.6	55.1	53.1
	大網白里市	43.5	37.6	44.6	42.7	44.6	44.8	44.1	42.9	42.6	50.3	41.1
	長柄町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	長南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
成田空港・印旛	成田市	58.9	56.9	56.9	58.5	59.1	55.7	55.1	66.2	68.7	50.6	61.3
	佐倉市	52.2	49.9	54.2	52.9	52.4	59.0	52.5	47.1	46.1	55.8	52.4
	四街道市	51.3	55.6	54.1	50.6	55.7	58.6	55.0	41.2	41.1	58.5	43.0
	八街市	39.7	38.3	41.2	35.5	40.7	35.9	37.7	49.1	41.7	36.6	40.7
	印西市	57.0	59.6	57.9	51.8	58.4	59.2	63.4	59.2	47.3	62.6	51.0
	白井市	50.4	48.6	48.6	53.3	54.7	56.8	47.8	50.3	39.7	58.1	45.8
	富里市	47.3	40.9	47.4	47.2	47.1	47.6	47.7	59.0	47.8	41.8	46.1
	山武市	43.5	44.3	43.4	42.9	47.0	39.7	40.4	47.8	43.7	38.6	47.8
	酒々井町	52.5	49.5	53.8	44.1	51.7	58.8	53.8	49.2	59.9	49.7	54.3
	栄町	46.7	45.5	40.2	43.0	47.5	52.5	45.4	41.2	44.6	59.1	48.6
	神崎町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	多古町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	芝山町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	横芝光町	47.8	52.7	45.0	40.9	48.8	44.6	45.3	50.9	43.3	52.0	54.8
常磐・TX	松戸市	53.9	56.3	60.4	55.6	54.2	59.5	54.8	54.9	44.3	54.1	45.1
	野田市	48.5	48.2	45.5	46.7	48.0	50.6	45.9	54.1	44.5	51.2	50.7
	柏市	53.0	52.0	59.4	52.2	51.1	58.8	57.6	53.6	49.2	52.1	44.3
	流山市	58.6	69.7	61.2	53.1	58.5	62.8	64.0	56.8	49.3	61.1	49.6
	我孫子市	53.1	55.8	54.7	53.2	56.2	58.5	53.1	44.3	47.3	57.9	50.2
銚子・九十九里・南房総	銚子市	46.1	41.9	44.9	42.6	43.3	45.5	44.3	47.1	54.3	46.6	50.4
	館山市	50.7	49.6	43.2	58.6	48.8	42.6	51.0	43.5	60.4	44.8	64.7
	旭市	56.2	62.5	53.6	62.8	61.4	49.6	55.3	63.3	49.9	52.0	51.4
	勝浦市	47.6	42.7	37.3	52.2	47.0	41.7	43.4	40.5	60.0	48.4	62.5
	鴨川市	56.5	57.5	50.5	72.7	54.3	44.4	50.5	55.6	65.5	51.7	61.9
	南房総市	44.0	42.4	42.2	42.4	37.2	36.8	42.2	40.6	55.9	45.8	54.5
	匝瑳市	49.1	53.5	50.8	52.8	50.6	43.4	43.8	47.7	45.5	47.4	55.2
	香取市	44.4	40.7	41.9	40.6	36.5	40.9	41.8	43.0	55.9	45.9	56.4
	いすみ市	46.7	51.5	45.9	49.7	45.6	41.5	42.6	37.4	50.9	45.9	55.9
	東庄町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	九十九里町	41.3	39.6	40.5	41.6	37.2	38.1	37.6	39.5	48.4	46.0	44.4
	一宮町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	睦沢町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	長生村	47.8	49.4	50.3	46.1	53.6	45.2	43.9	43.9	47.0	50.4	48.7
	白子町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大多喜町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	御宿町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鋸南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(2) 定性調査

	自治体	【全体】	①子育て	②教育	③医療	④福祉	⑤都市基盤	⑥住環境	⑦就業	⑧観光	⑨安全安心	⑩環境文化
東京湾岸	千葉市	55.0	53.5	59.0	56.1	54.7	62.1	61.0	59.6	49.5	54.0	40.2
	市川市	52.4	53.8	57.6	53.5	51.6	58.5	60.0	56.8	44.1	47.1	41.3
	船橋市	53.7	50.8	60.1	54.7	52.9	57.0	58.6	62.4	48.8	50.2	41.6
	習志野市	55.6	53.9	68.5	57.9	57.6	60.0	61.8	55.8	43.5	59.9	37.5
	八千代市	49.1	49.3	46.4	53.4	46.5	56.0	57.5	51.9	37.5	52.9	39.2
	鎌ヶ谷市	43.8	45.1	41.3	42.4	42.8	47.2	47.8	45.0	36.9	49.6	40.2
	浦安市	65.4	62.5	68.2	63.7	68.9	69.6	70.1	70.4	73.0	61.2	46.4
アクアライン・圏央道	木更津市	50.0	45.0	50.3	51.0	45.5	49.7	49.1	52.5	58.4	48.9	49.9
	茂原市	42.9	44.8	43.9	46.8	42.4	47.6	46.5	45.1	40.9	34.8	36.2
	東金市	41.9	39.8	37.1	45.1	42.4	45.8	46.7	42.1	40.8	38.5	41.2
	市原市	51.5	50.9	51.8	51.9	50.7	53.9	53.6	59.2	51.1	42.7	49.4
	君津市	49.7	54.5	48.4	49.8	53.1	48.5	49.2	51.7	49.3	49.6	43.2
	富津市	44.5	43.9	43.6	39.6	48.9	40.5	40.4	41.3	52.1	44.1	50.9
	袖ヶ浦市	59.4	64.7	62.2	58.5	61.3	57.7	56.5	60.1	56.0	60.2	56.3
	大網白里市	38.3	30.8	42.2	36.6	39.7	38.7	39.2	35.3	41.1	43.8	35.8
	長柄町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	長南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
成田空港・印旛	成田市	64.6	59.6	64.5	65.2	59.6	60.3	59.3	70.2	72.2	60.6	74.0
	佐倉市	54.3	52.3	56.5	54.2	53.5	59.6	57.6	50.3	47.5	54.8	56.7
	四街道市	51.9	56.2	53.3	53.0	57.9	57.5	56.5	44.3	37.9	62.6	39.4
	八街市	32.8	31.5	34.5	27.1	27.8	32.3	33.3	40.0	36.8	27.4	37.0
	印西市	61.1	65.5	66.0	57.4	58.8	64.6	65.6	59.6	49.9	71.1	52.4
	白井市	50.2	47.7	44.9	61.4	53.1	56.7	51.8	47.7	34.8	61.3	42.8
	富里市	45.3	35.7	48.3	46.5	36.4	47.9	49.9	54.4	45.3	41.3	47.4
	山武市	39.2	44.3	38.2	40.2	44.0	38.9	35.8	39.4	40.5	29.6	41.0
	酒々井町	55.2	54.7	55.3	48.5	50.9	61.3	57.2	53.9	50.1	63.7	56.5
	栄町	46.6	47.9	44.2	44.4	44.9	50.0	45.3	36.7	44.4	58.3	50.2
	神崎町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	多古町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	芝山町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	横芝光町	47.4	52.1	45.7	37.0	49.3	48.6	42.8	49.1	41.4	56.6	51.3
常磐・TX	松戸市	55.2	59.9	56.9	58.0	57.1	59.7	59.4	59.1	44.4	54.7	43.2
	野田市	47.7	46.2	43.1	45.2	45.1	47.0	46.3	56.9	43.2	52.7	51.4
	柏市	53.0	48.7	59.1	54.3	49.0	59.1	61.1	58.2	47.1	51.8	41.8
	流山市	62.8	73.4	65.0	60.4	62.7	63.6	66.9	63.5	54.4	66.7	51.8
	我孫子市	56.5	60.8	55.2	57.8	61.7	59.5	58.3	49.7	48.5	57.7	55.2
銚子・九十九里・南房総	銚子市	44.2	40.3	39.8	35.5	41.1	41.6	40.9	45.9	60.0	40.3	56.2
	館山市	51.1	44.9	39.6	53.8	55.3	38.9	45.0	42.6	70.2	46.9	73.4
	旭市	62.0	68.4	61.8	72.0	69.6	55.0	59.8	65.5	52.1	56.1	59.5
	勝浦市	47.3	41.7	33.9	49.2	48.8	39.0	40.2	41.1	65.9	44.4	68.4
	鴨川市	59.0	60.5	53.1	67.9	65.7	44.4	48.0	55.4	72.9	53.0	68.9
	南房総市	39.4	39.5	38.4	35.0	34.8	29.6	32.3	32.8	57.5	36.3	57.5
	匝瑳市	48.5	56.0	50.2	50.8	50.4	43.3	39.9	47.9	45.3	45.4	55.6
	香取市	38.7	29.5	35.8	29.6	25.4	36.8	37.0	33.4	60.4	36.1	63.2
	いすみ市	46.8	49.9	45.4	48.8	47.7	36.4	37.0	37.6	56.9	47.0	61.3
	東庄町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	九十九里町	36.8	36.4	33.6	36.6	32.7	32.6	33.8	32.4	48.2	35.3	46.0
	一宮町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	睦沢町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	長生村	49.3	53.4	57.1	49.2	57.6	43.3	41.1	43.1	49.0	50.5	48.4
	白子町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大多喜町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	御宿町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鋸南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(3) 定量調査

	自治体	【全体】	①子育て	②教育	③医療	④福祉	⑤都市基盤	⑥住環境	⑦就業	⑧観光	⑨安全安心	⑩環境文化
東京湾岸	千葉市	52.3	53.6	56.1	54.1	51.7	58.5	54.7	48.3	51.1	49.1	46.1
	市川市	54.2	57.0	59.8	48.3	54.4	60.3	54.6	61.1	46.5	54.8	45.7
	船橋市	54.1	55.4	64.8	47.3	52.3	61.5	54.1	51.6	55.1	54.6	44.3
	習志野市	54.2	53.6	68.9	48.4	52.6	62.7	51.7	54.5	49.5	55.0	45.1
	八千代市	52.6	51.6	59.9	51.0	51.2	60.2	56.2	48.3	44.6	54.9	48.1
	鎌ヶ谷市	51.3	51.8	59.3	49.7	52.3	55.3	50.1	43.5	47.8	57.0	46.2
	浦安市	60.3	53.9	74.6	51.1	58.4	63.4	54.1	62.8	83.2	54.3	47.2
アクアライン・圏央道	木更津市	52.3	50.0	51.7	54.6	51.5	53.8	59.2	51.9	60.6	43.1	46.7
	茂原市	48.2	50.4	50.6	53.8	47.5	49.0	51.5	44.9	44.2	45.6	43.9
	東金市	49.7	49.0	48.9	51.6	52.7	50.6	50.4	52.1	47.1	45.5	49.4
	市原市	49.2	52.2	48.1	49.0	50.7	52.9	50.7	48.3	47.2	45.6	47.0
	君津市	49.7	41.4	49.8	46.5	50.4	52.3	51.5	55.3	48.4	47.3	53.7
	富津市	47.2	47.0	40.5	47.5	46.0	46.3	45.6	49.6	46.4	51.9	50.9
	袖ヶ浦市	52.9	55.2	46.7	47.9	55.9	58.8	61.3	55.8	47.2	50.1	49.8
	大網白里市	48.7	44.5	46.9	48.7	49.5	50.8	49.0	50.6	44.2	56.8	46.4
	長柄町	46.7	41.9	37.9	60.0	56.0	44.0	41.6	39.2	56.2	34.9	55.4
	長南町	45.4	50.9	44.6	46.3	48.2	44.4	42.5	37.6	47.0	32.2	60.6
成田空港・印旛	成田市	53.2	54.3	49.3	51.8	58.6	51.2	50.9	62.1	65.1	40.5	48.6
	佐倉市	50.2	47.6	51.9	51.6	51.2	58.4	47.5	43.9	44.7	56.8	48.0
	四街道市	50.8	54.9	54.8	48.1	53.5	59.7	53.5	38.0	44.2	54.5	46.5
	八街市	46.7	45.0	47.9	43.9	53.5	39.5	42.1	58.3	46.7	45.7	44.3
	印西市	53.0	53.6	49.8	46.3	58.0	53.8	61.2	58.8	44.8	54.0	49.6
	白井市	50.5	49.5	52.3	45.2	56.4	56.9	43.7	52.8	44.6	55.0	48.9
	富里市	49.2	46.1	46.5	48.0	57.7	47.3	45.6	63.6	50.4	42.3	44.7
	山武市	47.9	44.3	48.7	45.6	50.0	40.5	44.9	56.2	46.8	47.7	54.6
	酒々井町	49.8	44.3	52.4	39.8	52.6	56.3	50.5	44.6	69.6	35.7	52.1
	栄町	46.8	43.0	36.1	41.6	50.0	55.0	45.5	45.8	44.7	59.8	46.9
	神崎町	50.2	53.8	46.0	50.0	48.0	41.3	47.2	50.2	52.4	59.0	54.0
	多古町	50.4	45.9	44.6	48.7	47.8	43.4	46.9	70.6	48.0	48.9	59.3
	芝山町	47.8	47.1	44.7	57.6	57.6	31.4	47.3	61.3	49.5	26.8	54.5
	横芝光町	48.3	53.3	44.2	44.9	48.2	40.6	47.7	52.8	45.2	47.4	58.3
常磐・TX	松戸市	52.6	52.6	63.9	53.2	51.3	59.3	50.3	50.7	44.1	53.4	47.0
	野田市	49.4	50.2	47.9	48.2	51.0	54.3	45.5	51.4	45.7	49.7	49.9
	柏市	53.0	55.3	59.6	50.1	53.2	58.6	54.1	49.0	51.2	52.4	46.7
	流山市	54.4	65.9	57.5	45.7	54.2	62.0	61.2	50.1	44.1	55.5	47.4
	我孫子市	49.8	50.8	54.3	48.6	50.8	57.5	47.9	38.9	46.1	58.1	45.2
銚子・九十九里・南房総	銚子市	48.0	43.4	49.9	49.7	45.5	49.4	47.7	48.3	48.5	52.8	44.6
	館山市	50.4	54.2	46.7	63.4	42.3	46.3	57.0	44.5	50.6	42.7	55.9
	旭市	50.4	56.6	45.3	53.5	53.2	44.2	50.9	61.0	47.7	47.9	43.4
	勝浦市	47.9	43.8	40.7	55.2	45.1	44.4	46.6	39.9	54.1	52.3	56.6
	鴨川市	54.0	54.6	47.9	77.4	42.9	44.5	52.9	55.7	58.2	50.4	54.9
	南房総市	48.7	45.3	46.1	49.8	39.6	44.0	52.1	48.5	54.4	55.3	51.6
	匝瑳市	49.7	51.0	51.4	54.7	50.8	43.4	47.6	47.6	45.7	49.4	54.9
	香取市	50.0	51.9	48.0	51.6	47.6	45.0	46.7	52.7	51.5	55.7	49.6
	いすみ市	46.6	53.1	46.3	50.6	43.5	46.5	48.1	37.3	44.9	44.9	50.6
	東庄町	48.6	44.4	44.4	43.3	49.7	42.1	45.2	54.4	44.9	61.9	55.6
	九十九里町	45.8	42.7	47.5	46.6	41.7	43.5	41.4	46.6	48.5	56.8	42.7
	一宮町	52.2	60.5	47.6	51.0	52.0	47.3	57.1	53.2	51.0	52.2	50.4
	睦沢町	48.1	53.9	45.0	38.4	54.0	44.6	46.7	42.0	48.8	52.9	54.7
	長生村	46.4	45.5	43.5	43.0	49.7	47.0	46.7	44.6	44.9	50.2	48.9
	白子町	47.1	53.0	45.5	41.6	41.9	44.1	45.0	51.3	51.3	50.6	46.7
	大多喜町	50.4	46.7	50.8	63.9	45.8	42.5	49.9	38.5	52.3	42.8	70.4
	御宿町	45.4	43.0	46.9	48.4	35.7	44.8	53.7	28.1	50.1	54.6	48.3
	鋸南町	47.6	39.4	45.1	53.2	34.2	44.5	51.6	51.5	58.5	50.7	47.2

(資料2) 自治体別「愛着度」、「居住継続意向」の満足度指数・偏差値一覧

	自治体	愛着度 満足度指数	愛着度 偏差値	居住継続意向 満足度指数	居住継続意向 偏差値
東京湾岸	千葉市	64.4	54.7	63.0	53.5
	市川市	66.5	55.4	54.5	50.7
	船橋市	51.0	50.4	55.6	51.1
	習志野市	71.4	57.0	76.1	57.8
	八千代市	50.6	50.2	46.2	48.0
	鎌ヶ谷市	55.8	51.9	52.0	49.9
	浦安市	101.3	66.7	86.7	61.3
アクアライン・圏央道	木更津市	43.2	47.8	57.0	51.5
	茂原市	14.7	38.6	9.7	36.0
	東金市	7.2	36.2	46.4	48.1
	市原市	37.2	45.9	41.1	46.3
	君津市	38.4	46.3	35.8	44.6
	富津市	20.0	40.3	15.0	37.8
	袖ヶ浦市	76.6	58.7	93.3	63.4
	大網白里市	39.1	46.5	34.9	44.3
	長柄町	—	—	—	—
	長南町	—	—	—	—
成田空港・印旛	成田市	92.0	63.6	88.7	61.9
	佐倉市	73.1	57.5	70.3	55.9
	四街道市	77.8	59.0	97.8	64.9
	八街市	▲ 21.9	26.7	▲ 18.8	26.7
	印西市	79.8	59.7	75.6	57.6
	白井市	43.2	47.8	46.7	48.2
	富里市	8.2	36.5	4.2	34.2
	山武市	43.4	47.9	39.2	45.7
	酒々井町	52.8	50.9	58.7	52.1
	栄町	77.7	59.0	77.7	58.3
	神崎町	—	—	—	—
	多古町	—	—	—	—
	芝山町	—	—	—	—
	横芝光町	47.0	49.1	70.5	56.0
常磐・TX	松戸市	70.8	56.8	65.4	54.3
	野田市	12.2	37.8	20.5	39.6
	柏市	69.1	56.2	68.1	55.2
	流山市	107.3	68.6	112.5	69.7
	我孫子市	77.4	58.9	69.4	55.6
銚子・九十九里・南房総	銚子市	32.0	44.2	32.2	43.4
	館山市	68.1	55.9	77.4	58.2
	旭市	106.6	68.4	90.0	62.4
	勝浦市	58.8	52.9	58.8	52.1
	鴨川市	73.4	57.6	86.8	61.3
	南房総市	35.3	45.3	47.1	48.3
	匝瑳市	5.9	35.8	17.7	38.6
	香取市	▲ 8.5	31.1	▲ 2.9	31.9
	いすみ市	23.5	41.5	11.7	36.7
	東庄町	—	—	—	—
	九十九里町	0.0	33.8	▲ 5.7	31.0
	一宮町	—	—	—	—
	睦沢町	—	—	—	—
	長生村	53.0	51.0	70.5	56.0
	白子町	—	—	—	—
	大多喜町	—	—	—	—
	御宿町	—	—	—	—
	鋸南町	—	—	—	—

(資料3) 自治体別 協働、SDGs、多様性、行政デジタル化等の満足度指数一覧

	自治体	住民による 市民参加が 積極的	住民同士のコミュニ ティ活動が積極的	環境負荷の低減を 意識している人が 多い	多くの面で 男女平等が 実現されている	多様性を 受け入れる 環境である	行政のデジタル化 が進んでいる
東京湾岸	千葉市	▲ 42.2	▲ 38.4	▲ 57.9	▲ 32.7	▲ 19.9	▲ 43.2
	市川市	▲ 53.1	▲ 57.4	▲ 70.4	▲ 40.5	▲ 17.2	▲ 26.3
	船橋市	▲ 53.4	▲ 60.5	▲ 75.6	▲ 42.9	▲ 32.2	▲ 55.5
	習志野市	▲ 32.0	▲ 28.6	▲ 67.9	▲ 38.1	▲ 41.7	▲ 47.5
	八千代市	▲ 66.3	▲ 73.8	▲ 96.8	▲ 59.9	▲ 57.8	▲ 100.1
	鎌ヶ谷市	▲ 55.8	▲ 59.6	▲ 96.2	▲ 50.0	▲ 53.9	▲ 73.0
	浦安市	18.2	▲ 9.7	▲ 16.0	13.5	46.4	▲ 3.9
アクアライン・圏央道	木更津市	▲ 49.2	▲ 72.3	▲ 89.3	▲ 72.3	▲ 64.7	▲ 89.3
	茂原市	▲ 66.0	▲ 90.3	▲ 114.5	▲ 85.4	▲ 70.8	▲ 95.0
	東金市	▲ 89.3	▲ 64.3	▲ 103.6	▲ 67.8	▲ 39.3	▲ 114.3
	市原市	▲ 46.6	▲ 49.6	▲ 66.7	▲ 57.3	▲ 37.2	▲ 69.1
	君津市	▲ 56.4	▲ 59.0	▲ 110.2	▲ 64.1	▲ 59.0	▲ 92.3
	富津市	▲ 50.0	▲ 65.0	▲ 100.0	▲ 80.0	▲ 105.0	▲ 115.0
	袖ヶ浦市	▲ 26.7	▲ 13.3	▲ 43.3	▲ 16.6	10.1	▲ 63.4
	大網白里市	▲ 113.0	▲ 100.0	▲ 117.5	▲ 65.2	▲ 113.2	▲ 121.7
	長柄町	—	—	—	—	—	—
	長南町	—	—	—	—	—	—
成田空港・印旛	成田市	6.3	▲ 12.9	▲ 42.7	▲ 12.8	57.0	▲ 30.2
	佐倉市	▲ 28.2	▲ 34.6	▲ 67.8	▲ 32.1	▲ 33.4	▲ 70.3
	四街道市	▲ 22.2	▲ 46.7	▲ 68.8	▲ 46.7	▲ 15.6	▲ 55.7
	八街市	▲ 103.1	▲ 106.4	▲ 115.7	▲ 109.3	▲ 87.6	▲ 118.9
	印西市	▲ 36.6	▲ 18.3	▲ 36.6	16.3	12.2	▲ 20.4
	白井市	▲ 63.4	▲ 86.6	▲ 90.0	▲ 59.9	▲ 50.1	▲ 83.4
	富里市	▲ 70.8	▲ 83.3	▲ 100.0	▲ 91.7	▲ 37.5	▲ 100.0
	山武市	▲ 100.0	▲ 104.3	▲ 113.0	▲ 100.1	▲ 43.4	▲ 108.8
	酒々井町	▲ 11.7	▲ 23.6	▲ 35.3	▲ 41.1	▲ 35.3	▲ 94.1
	栄町	▲ 44.4	▲ 55.6	▲ 100.0	▲ 72.3	▲ 55.5	▲ 105.6
	神崎町	—	—	—	—	—	—
	多古町	—	—	—	—	—	—
	芝山町	—	—	—	—	—	—
	横芝光町	▲ 29.4	▲ 47.1	▲ 129.4	▲ 76.6	▲ 88.2	▲ 111.7
常磐・TX	松戸市	▲ 39.4	▲ 41.5	▲ 62.8	▲ 30.4	▲ 10.5	▲ 43.7
	野田市	▲ 65.6	▲ 76.7	▲ 90.5	▲ 57.4	▲ 61.5	▲ 94.6
	柏市	▲ 47.0	▲ 36.8	▲ 61.0	▲ 32.7	▲ 26.0	▲ 61.2
	流山市	▲ 5.3	▲ 4.1	▲ 42.2	▲ 17.9	▲ 14.6	▲ 28.4
	我孫子市	▲ 17.8	▲ 22.6	▲ 53.2	▲ 30.6	▲ 37.0	▲ 67.7
銚子・九十九里・南房総	銚子市	▲ 75.0	▲ 89.2	▲ 117.9	▲ 85.8	▲ 85.8	▲ 107.1
	館山市	▲ 54.5	▲ 45.5	▲ 81.9	▲ 41.0	▲ 45.4	▲ 95.6
	旭市	▲ 23.4	▲ 40.0	▲ 63.4	3.4	▲ 13.3	▲ 59.8
	勝浦市	▲ 64.8	▲ 53.0	▲ 117.6	▲ 76.6	▲ 64.7	▲ 100.1
	鴨川市	▲ 13.2	13.2	▲ 73.3	▲ 6.7	▲ 46.7	▲ 53.2
	南房総市	▲ 47.0	▲ 29.5	▲ 99.9	▲ 106.0	▲ 123.6	▲ 111.7
	匝瑳市	▲ 29.3	▲ 41.1	▲ 106.0	▲ 100.1	▲ 88.3	▲ 100.1
	香取市	▲ 68.6	▲ 62.8	▲ 137.2	▲ 102.8	▲ 119.9	▲ 125.8
	いすみ市	▲ 70.7	▲ 100.1	▲ 94.0	▲ 76.6	▲ 41.2	▲ 123.5
	東庄町	—	—	—	—	—	—
	九十九里町	▲ 105.8	▲ 94.1	▲ 141.2	▲ 117.6	▲ 99.9	▲ 141.2
	一宮町	—	—	—	—	—	—
	睦沢町	—	—	—	—	—	—
	長生村	▲ 47.1	▲ 41.2	▲ 58.7	▲ 47.0	▲ 47.0	▲ 64.6
	白子町	—	—	—	—	—	—
	大多喜町	—	—	—	—	—	—
	御宿町	—	—	—	—	—	—
	鋸南町	—	—	—	—	—	—

(資料4) 定性調査・定量調査項目一覧

分野	定性調査(アンケート調査)項目		定量調査(統計データ分析調査)項目	
① 子育て	1	安心して出産・子育てができる	1	合計特殊出生率
	2	行政が子育て支援に力を入れている	2	人口あたり保育所定員
	3	子育てしながら働きやすい環境である	3	待機児童率
	4	子育てで困ったときに頼れる人(親戚・知人)が近隣にいる	4	年少人口比率
			5	15-49歳人口あたり婚姻件数
② 教育	1	教育に熱心なまちである	1	可住地面積あたり小学校数
	2	教育水準が高い	2	可住地面積あたり中学校数
	3	魅力・特色ある教育が行われている	3	可住地面積あたり高校数
	4	スポーツ活動が活発である	4	高校等進学率
			5	大学等進学率
③ 医療	1	信頼できるかかりつけ医がいる	1	人口あたり病院数
	2	休日・夜間や緊急時にかかる医療機関がある	2	人口あたり病院病床数
	3	医療・福祉施設が近くにあり、便利である	3	人口あたり一般診療所数
	4	行政や住民の健康づくりに対する意識が高い	4	人口あたり診療所病床数
			5	人口あたり医師数
			6	人口あたり歯科医師数
④ 福祉	1	元気に活躍している高齢者が多い	1	老年人口比率
	2	高齢者や障害者が暮らしやすいまちである	2	老年化指数
	3	介護が必要な人に対する行政の取組みが手厚い	3	高齢単身世帯数比率
	4	地域住民が支え合って高齢者を見守っている	4	要介護(要支援)認定比率
			5	65歳以上人口あたり介護老人保健施設定員
			6	65歳以上人口あたり介護老人福祉施設定員
⑤ 都市 基盤	1	道路網が整備されている	1	可住地面積あたり人口密度
	2	上下水道が整備されている	2	水道普及率
	3	魅力ある公園が整備されている	3	下水道普及率
	4	公共交通の利便性が良い	4	人口1千人あたり都市公園数
⑥ 住環境	1	市街地が整備されている	1	社会増減率
	2	買い物など日常生活が便利である	2	住宅地価格変動率
	3	多くの人で賑わう場所がある	3	人口あたり新設住宅着工戸数
	4	落ち着きと安らぎがある	4	人口あたり小売事業所数
⑦ 就業	1	働く場が多い	1	生産年齢人口比率
	2	地域を代表する産業がある	2	就業率
	3	女性や高齢者が生き生きと働いている	3	女性就業者比率
	4	新しいビジネスを始める人が多い	4	高齢者就業者比率
⑧ 観光	1	市外から訪れる観光客が多い	1	人口あたり観光入込客数
	2	地域に、観光客を受け入れるおもてなしの心がある	2	調査対象地点あたり観光入込数
	3	行政が観光客の誘致に積極的に取り組んでいる	3	人口あたり宿泊客総数
	4	メディア(テレビの旅番組等)に、よく取り上げられる	4	宿泊施設調査対象地点あたり宿泊客数
⑨ 安全 安心	1	治安が良い	1	人口あたり交通事故発生件数
	2	行政が防犯対策に積極的に取り組んでいる	2	人口あたり交通事故死傷者数
	3	自然災害が少ない	3	人口あたり出火件数
	4	行政が防災対策に積極的に取り組んでいる	4	人口あたり刑法犯認知件数
⑩ 環境・ 文化	1	自然が豊かである	1	人口あたり年間ごみ排出総量
	2	誇りにできる歴史・伝統・文化がある	2	人口あたり公立文化施設数
	3	地元で、おいしい食べ物や名産品がある	3	人口あたり指定文化財数
	4	地域の行事(祭り・イベント等)が活発に行われている	4	人口あたり図書館数
			5	総面積に占める林野面積比率
⑪ その他	1	このまちが好きである		
	2	このまちに長く住みたいと思う		
	3	住民による市民参加が積極的に行われている		
	4	住民同士のコミュニティ活動が積極的に行われている		
	5	SDGsが進んでいるまちである		
	6	多くの面で男女平等が実現されている		
	7	障害者・外国人など、多様性を受け入れる環境である		
	8	行政のデジタル化が進んでいる		

(資料5) 定量調査項目出典一覧

分野	定量調査項目		出典	算式
① 子育て	1	合計特殊出生率	千葉県: 健康福祉指導課ホームページ、衛生統計年報人口動態調査(2020年)	(各階級出生数)÷(15-49歳5歳階級別母親数)
	2	人口あたり保育所定員	厚生労働省: 保育課調べ(2021年4月1日) ※学校教育情報サイトGaccom「ガッコム」 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(保育所定員)÷(総人口)×1000
	3	待機児童率	厚生労働省: 保育課調べ(2021年4月1日) ※学校教育情報サイトGaccom「ガッコム」	(待機児童数)÷(保育所定員)
	4	年少人口比率	総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(年少人口)÷(総人口)
	5	15-49歳人口あたり婚姻件数★	千葉県: 衛生統計年報人口動態調査(2020年) 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(婚姻件数)÷(15-49歳人口)×1000
② 教育	1	可住地面積あたり小学校数	千葉県: 統計年鑑(2020年) 総務省: 統計で見る市町村のすがた(2021年)	(小学校数)÷(可住地面積)×100
	2	可住地面積あたり中学校数	千葉県: 統計年鑑(2020年) 総務省: 統計で見る市町村のすがた(2021年)	(中学校数)÷(可住地面積)×100
	3	可住地面積あたり高校数	千葉県: 統計年鑑(2020年) 総務省: 統計で見る市町村のすがた(2021年)	(高校数)÷(可住地面積)×100
	4	高校等進学率	千葉県: 学校基本調査結果(2020年度)	(高校等進学者数)÷(中学校卒業者数)
	5	大学等進学率	千葉県: 学校基本調査結果(2020年度)	(大学等進学者数)÷(高校卒業者数)
③ 医療	1	人口あたり病院数	千葉県: 統計年鑑(2019年) ※千葉県「衛生統計年報」 厚生労働省「医療施設調査」 総務省: 国勢調査(2020年10月1日) ※医療施設調査は隔年実施のため最新が2019年	(病院数)÷(総人口)×10000
	2	人口あたり病院病床数	千葉県: 統計年鑑(2019年) ※千葉県「衛生統計年報」 厚生労働省「医療施設調査」 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(病院病床数)÷(総人口)×10000
	3	人口あたり一般診療所数	千葉県: 統計年鑑(2019年) ※千葉県「衛生統計年報」 厚生労働省「医療施設調査」 総務省: 国勢調査(2020年10月1日) ※医療施設調査は隔年実施のため最新が2019年	(一般診療所数)÷(総人口)×10000
	4	人口あたり診療所病床数	千葉県: 統計年鑑(2019年) ※千葉県「衛生統計年報」 厚生労働省「医療施設調査」 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(診療所病床数)÷(総人口)×10000
	5	人口あたり医師数	千葉県: 統計年鑑(2019年) ※千葉県「衛生統計年報」 厚生労働省「医療施設調査」 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(医師数)÷(総人口)×10000
	6	人口あたり歯科医師数	千葉県: 統計年鑑(2019年) ※千葉県「衛生統計年報」 厚生労働省「医療施設調査」 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(歯科医師数)÷(総人口)×10000
④ 福祉	1	老年人口比率	総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(老年人口)÷(総人口)
	2	老年化指数	総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(老年人口)÷(生産年齢人口)
	3	高齢単身世帯数比率	総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(高齢単身世帯数)÷(一般世帯数)
	4	要介護(要支援)認定比率	独立行政法人福祉医療機構WAMNET(2022年1月) ※厚生労働省「介護保険事業状況報告月報」	(要介護認定者数)÷(65歳以上人口)
	5	65歳以上人口あたり 介護老人保健施設定員	厚生労働省: 介護サービス施設・事業所調査(2020年) 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(介護老人保健施設定員)÷(65歳以上人口)×10000
	6	65歳以上人口あたり 介護老人福祉施設定員	厚生労働省: 介護サービス施設・事業所調査(2020年) 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(介護老人福祉施設定員)÷(65歳以上人口)×10000
⑤ 都市基盤	1	可住地面積あたり人口密度	総務省: 統計で見る市町村のすがた(2021年) 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(総人口)÷(可住地面積)
	2	水道普及率	千葉県「水道統計調査」(2021年3月)	(給水人口)÷(総人口)
	3	下水道普及率	公益社団法人日本下水道協会: 全国市町村別下水道処理人口普及率(2020年3月)	(下水処理人口)÷(総人口)
	4	人口あたり都市公園数	千葉県: 「みどりの現況値」(2020年3月) 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(都市公園数)÷(総人口)×1000
⑥ 住環境	1	社会増減率	千葉県: 毎月常住人口調査報告書(2021年度) 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(社会増加数)÷(総人口)
	2	住宅地価格変動率	千葉県: 地価調査・地価公示(2021年)	(2021年公示地価)÷(2020年公示地価) ※各自治体の全地点の変動率の平均値
	3	人口あたり新設住宅着工戸数	千葉県: 建築着工統計(2021年度) 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(新設住宅戸数)÷(総人口)×1000
	4	人口あたり小売事業所数	千葉県: 統計年鑑(2019年) ※千葉県「平成28年商業統計調査結果報告書」 総務省: 国勢調査(2020年10月1日) ※経済センサス活動調査は最新が2016年	(小売事業所数)÷(総人口)×1000
⑦ 就業	1	生産年齢人口比率	総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(生産年齢人口)÷(総人口)
	2	就業率★	総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(就業者数)÷(15歳以上人口)
	3	女性就業率比率★	総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(女性就業者数)÷(15歳以上女性人口)
	4	高齢者就業率比率★	総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(65歳以上就業者数)÷(65歳以上人口)
⑧ 観光	1	人口あたり観光入込客数	千葉県: 千葉県観光入込調査報告書(2020年) 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(観光入込客数)÷(総人口)×1000
	2	調査対象地点あたり観光入込数	千葉県: 千葉県観光入込調査報告書(2020年)	(観光入込客数)÷(調査対象地点数)
	3	人口あたり宿泊客総数	千葉県: 千葉県観光入込調査報告書(2020年) 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(宿泊客数)÷(総人口)×1000
	4	宿泊調査対象あたり宿泊客数	千葉県: 千葉県観光入込調査報告書(2020年)	(宿泊客数)÷(宿泊施設調査対象地点数)
⑨ 安全安心	1	人口あたり交通事故発生件数	千葉県: 統計年鑑(2019年) ※千葉県警察本部「交通白書」 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(交通事故発生件数)÷(総人口)×1000
	2	人口あたり交通事故死傷者数	千葉県: 統計年鑑(2019年) ※千葉県警察本部「交通白書」 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(交通事故死傷者数)÷(総人口)×1000
	3	人口あたり出火件数	千葉県: 統計年鑑(2019年) ※千葉県「消防防災年報」 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(火災発生件数)÷(総人口)×1000
	4	人口あたり刑法犯認知件数	千葉県: 統計年鑑(2019年) ※千葉県警察本部「犯罪の概要」 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(刑法犯認知件数)÷(総人口)×1000
⑩ 環境・文化	1	人口あたり年間ごみ排出総量	環境省: 一般廃棄物処理事業実施調査(2020年度) 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(年間ごみ排出総量)÷(総人口)
	2	人口あたり公立文化施設数	千葉県: 県内の公立文化施設(2020年10月1日) 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(公立文化施設数)÷(総人口)
	3	人口あたり指定文化財数	千葉県: 統計年鑑(2020年7月1日) ※千葉県教育庁文化財課調べ 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(指定文化財数)÷(総人口)×10000
	4	人口あたり図書館数	文部科学省: 社会教育調査(2018年度) 【最新が2018年度分～公表は2020年】 総務省: 国勢調査(2020年10月1日)	(図書館数)÷(総人口)×10000
	5	総面積に占める林野面積比率	農林水産省: 世界農林業センサス(2010年) 【最新が2010年】	(林野面積)÷(総面積)